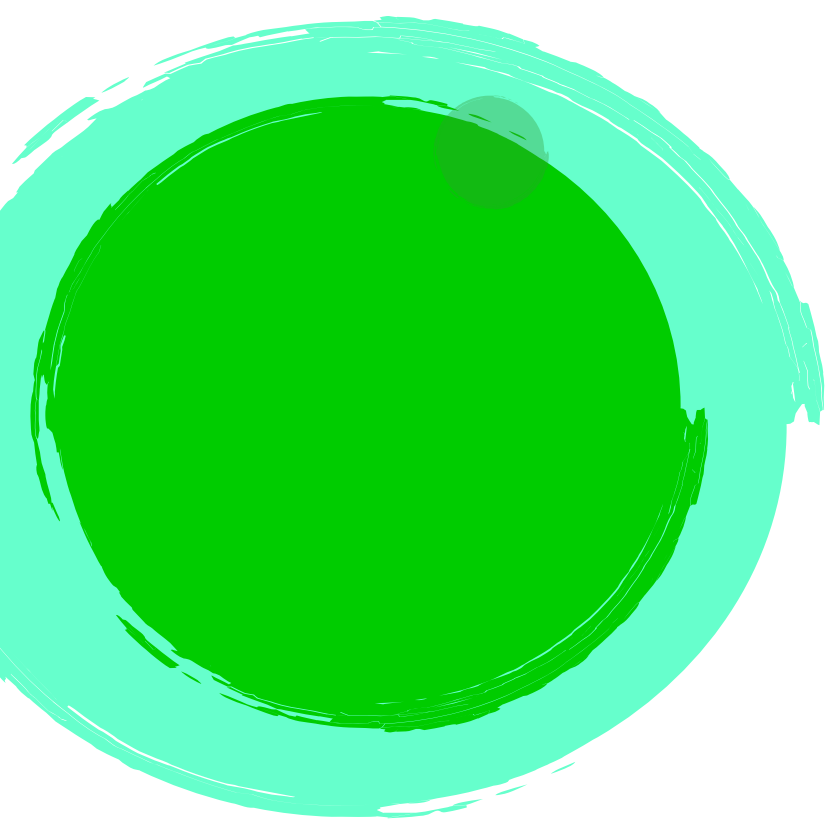
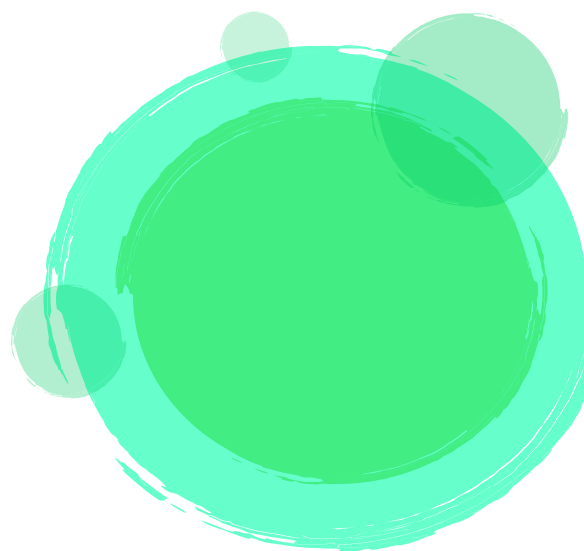




2025（令和7年度）
石巻専修大学 大学院

経営学研究科
〈シラバス〉



目次

経営学研究科

修士課程

経営学専攻

シラバス	1
.....	2

博士後期課程

経営学専攻

シラバス	50
.....	51

修士課程

経営学専攻

経営学特論 (Advanced General Theory of Management)

担当者	教授 工藤 周平		
[単位・開講期] 4単位・通年 [授業概要] 現在、政治的、経済的、社会的、技術的な要因によって経営環境が絶えず変化する。企業はこのような環境に対応するために、経営環境を分析し、有効な経営戦略を策定し、それに最適な実行基盤を構築し、その実行結果を次の経営戦略に反映させるという一連のプロセスをスピード感を持って実施しなければ、経営を維持・発展させることは困難である。 本授業では、経営戦略、経営組織、経営情報システムに焦点を当て、経営戦略の策定方法、経営戦略の実現に適した組織基盤の構築方法、経営戦略の実現を支援する経営情報システムの活用方法について学習する。経営戦略をより具体的に示したビジネスモデルキャンバスを取り上げ、学生が、ポジショニングアプローチの観点に基づいてビジネスモデルキャンバスを作成するとともに、それを実現するための組織のあり方や経営情報システムを活用方法について報告や議論を行う。 [到達目標] 学生が、経営戦略、経営組織、経営情報システムを中心に経営学の基本的な考え方や分析枠組みを理解し、それらの活用方法を修得できる。修得した知識に基づき、現実の企業経営に関する様々な問題に対してビジネスモデルキャンバスを使って主体的に思考できる。グループワーク等を通じて、問題解決のためのコミュニケーション能力を身につけることができる。 <授業の方法> [授業形態] 【対面形式】 板書と視聴覚メディア（DVD）を活用しながら授業形式ですすめる。 配布印刷物を用いて方法を説明したのち、グループワークを行う。 <table border="0"> <tr> <td data-bbox="167 1193 790 1921"> [授業計画(前期)] (1) ガイダンス、企業のマネジメントとは [対面] (2) ケース：フォードと GM、環境・戦略・組織の整合性[対面] (3) PEST 分析、SWOT 分析[対面] (4) 市場分析（製品ライフサイクル、顧客の分析）[対面] (5) ケース：マクドナルドとモスバーガー、いかに競争するか[対面] (6) 5つの競争要因、3つの基本戦略[対面] (7) 価値連鎖[対面] (8) 競争優位性の源泉と持続性[対面] (9) 価値基準[対面] (10) 業務卓越性企業[対面] (11) 製品優位性企業[対面] (12) 顧客親密性企業[対面] (13) 組織設計[対面] (14) ARC 分析[対面] (15) 学習の総括とプレゼンテーション [非対面：同時双方向型] </td><td data-bbox="790 1193 1414 1921"> [授業計画(後期)] (16) ガイダンス、企業のマネジメントとは [対面] (17) ケース：フォードと GM、環境・戦略・組織の整合性[対面] (18) PEST 分析、SWOT 分析[対面] (19) 市場分析（製品ライフサイクル、顧客の分析）[対面] (20) ケース：マクドナルドとモスバーガー、いかに競争するか[対面] (21) 5つの競争要因、3つの基本戦略[対面] (22) 価値連鎖[対面] (23) 競争優位性の源泉と持続性[対面] (24) 価値基準[対面] (25) 業務卓越性企業[対面] (26) 製品優位性企業[対面] (27) 顧客親密性企業[対面] (28) 組織設計[対面] (29) ARC 分析[対面] (30) 学習の総括とプレゼンテーション [非対面：同時双方向型] </td></tr> </table> [アクティブラーニングの取り入れ状況] 経営学の分析枠組みを活用して学習内容をまとめ、プレゼンテーションやグループワークを行う。		[授業計画(前期)] (1) ガイダンス、企業のマネジメントとは [対面] (2) ケース：フォードと GM、環境・戦略・組織の整合性[対面] (3) PEST 分析、SWOT 分析[対面] (4) 市場分析（製品ライフサイクル、顧客の分析）[対面] (5) ケース：マクドナルドとモスバーガー、いかに競争するか[対面] (6) 5つの競争要因、3つの基本戦略[対面] (7) 価値連鎖[対面] (8) 競争優位性の源泉と持続性[対面] (9) 価値基準[対面] (10) 業務卓越性企業[対面] (11) 製品優位性企業[対面] (12) 顧客親密性企業[対面] (13) 組織設計[対面] (14) ARC 分析[対面] (15) 学習の総括とプレゼンテーション [非対面：同時双方向型]	[授業計画(後期)] (16) ガイダンス、企業のマネジメントとは [対面] (17) ケース：フォードと GM、環境・戦略・組織の整合性[対面] (18) PEST 分析、SWOT 分析[対面] (19) 市場分析（製品ライフサイクル、顧客の分析）[対面] (20) ケース：マクドナルドとモスバーガー、いかに競争するか[対面] (21) 5つの競争要因、3つの基本戦略[対面] (22) 価値連鎖[対面] (23) 競争優位性の源泉と持続性[対面] (24) 価値基準[対面] (25) 業務卓越性企業[対面] (26) 製品優位性企業[対面] (27) 顧客親密性企業[対面] (28) 組織設計[対面] (29) ARC 分析[対面] (30) 学習の総括とプレゼンテーション [非対面：同時双方向型]
[授業計画(前期)] (1) ガイダンス、企業のマネジメントとは [対面] (2) ケース：フォードと GM、環境・戦略・組織の整合性[対面] (3) PEST 分析、SWOT 分析[対面] (4) 市場分析（製品ライフサイクル、顧客の分析）[対面] (5) ケース：マクドナルドとモスバーガー、いかに競争するか[対面] (6) 5つの競争要因、3つの基本戦略[対面] (7) 価値連鎖[対面] (8) 競争優位性の源泉と持続性[対面] (9) 価値基準[対面] (10) 業務卓越性企業[対面] (11) 製品優位性企業[対面] (12) 顧客親密性企業[対面] (13) 組織設計[対面] (14) ARC 分析[対面] (15) 学習の総括とプレゼンテーション [非対面：同時双方向型]	[授業計画(後期)] (16) ガイダンス、企業のマネジメントとは [対面] (17) ケース：フォードと GM、環境・戦略・組織の整合性[対面] (18) PEST 分析、SWOT 分析[対面] (19) 市場分析（製品ライフサイクル、顧客の分析）[対面] (20) ケース：マクドナルドとモスバーガー、いかに競争するか[対面] (21) 5つの競争要因、3つの基本戦略[対面] (22) 価値連鎖[対面] (23) 競争優位性の源泉と持続性[対面] (24) 価値基準[対面] (25) 業務卓越性企業[対面] (26) 製品優位性企業[対面] (27) 顧客親密性企業[対面] (28) 組織設計[対面] (29) ARC 分析[対面] (30) 学習の総括とプレゼンテーション [非対面：同時双方向型]		

[課題に対するフィードバック方法]

提出課題にコメントを記入し返却する。

[教科書・参考書等]

教科書: Michael Treacy and Fred Wiersema, *The Discipline of Market Leaders*, Addison-Wesley Publishing Company, 1995.

Garth Saloner, Andrea Shepard, and Joel Podolny, *Strategic Management*, John Wiley & Sons, 2001.

Alexander Osterwalder and Yves Pigneur, *Business Model Generation*, John Wiley & Sons, 2001.

参考書: Michael E. Porter, *Competitive Strategy*, The Free Press, 1980.

QED Information Sciences, Inc. (ed.), *Information Systems Planning for Competitive Advantage*, QED Information Sciences, Inc., 1989.

[評価方法]

(1) 試験・テストについて

試験やテストは実施しない

(2) 試験以外の評価方法

学生の報告の内容、レポートなどの提出物、議論やグループワーク等を評価する

(3) 成績の配分・評価基準等

報告内容の評価: 40%、提出物の評価: 30%、グループワークの評価: 30%

報告内容: 各授業テーマの理解度、プレゼン資料などの発表方法を見る。

提出物の評価: レポートや課題を課し、それらが指示通りの内容か、深く考えられているか、思考を発展させてまとめられているか、を見る。

グループワークの評価: 論理性、発言の積極性発表、聴衆を惹きつける工夫などを見る。

[準備学習]

事前学習: 次回の授業内容に該当する部分について調査し、疑問点などをまとめる。(120分)

事後学習: 前回のノートや配布したプリント等を参考にして復習する。授業内容に関連したニュースに対して、学習した知識を用いて分析する。(120分)

[科目の位置づけと他科目との関連]

経営組織論特論やマーケティング論特論を合わせて受講することが望ましい。

[担当教員へのアクセス]

研究室: 3号館1階 3116号室

メールアドレス: s3467012@edu.isenshu-u.ac.jp

[オフィスアワー]

時間帯: 月曜5限(16時50分~18時20分)

場所: 研究室(3号館1階3116室)

※オフィスアワーなどで研究室を訪問する際は、前もって連絡すること

経営管理論特論 (Advanced Business Management)

担当者	准教授 稲葉 健太郎
[単位・開講期] 4単位・通年	
[授業概要] 現在は、政治的、経済的、社会的、技術的な要因によって経営環境が絶えず変化する。企業はこのような経営環境の変化に応じて新しい企業経営の仕組みを構築し、それぞれの経営活動を管理しなければならない。 本授業では、経営管理の内容として主に原価管理、販売管理、生産管理、人事管理に焦点を当てて経営の管理技法を学習する。さらに、新しい企業経営を発想するための手法としてシステム×デザイン思考とビジネスモデル・イノベーションに焦点を当て、新しい企業経営の実現とその管理の方法について議論を進める。	
[到達目標] 学生が、経営管理の内容と方法を理解し、それら経営管理について修得した知識に基づき、新しい企業経営とその継続的な改善について分析枠組みを使って主体的に思考できる。	
<授業の方法>	
[授業形態]	
【対面形式】 板書とパワーポイントを活用しながら、講義形式ですすめる。	
[授業計画(前期)] (1) ガイダンス、経営管理とは[対面] (2) 第4次産業革命の時代[対面] (3) 価値条件と経営組織[対面] (4) 原価管理[対面] (5) 経営の業績評価[対面] (6) 販売管理[対面] (7) セブン-イレブンの事業システム[対面] (8) 品質管理[対面] (9) QC7つ道具[対面] (10) 生産計画の策定[対面] (11) 在庫管理[対面] (12) 物流管理とSCM[対面] (13) 人事管理[対面] (14) モチベーション理論[対面] (15) 学習の総括とプレゼンテーション [非対面:同時双方向型]	[授業計画(後期)] (16) ガイダンス、経営管理とは[対面] (17) 第4次産業革命の時代[対面] (18) 価値条件と経営組織[対面] (19) 原価管理[対面] (20) 経営の業績評価[対面] (21) 販売管理[対面] (22) セブン-イレブンの事業システム[対面] (23) 品質管理[対面] (24) QC7つ道具[対面] (25) 生産計画の策定[対面] (26) 在庫管理[対面] (27) 物流管理とSCM[対面] (28) 人事管理[対面] (29) モチベーション理論[対面] (30) 学習の総括とプレゼンテーション [非対面:同時双方向型]
[アクティブラーニングの取り入れ状況] 毎回の講義の内容について学生にプレゼンテーションを課す。講義のテーマについて、ディスカッションを行う。	
[課題に対するフィードバック方法] 提出課題にコメントを記入し返却する。	
[教科書・参考書等] 教科書: ITのプロ 46・三好康之、『ITエンジニアのための[業務知識]がわかる本 第5版』、翔泳社、2018年 前野隆司、『システム×デザイン思考で世界を変える』、日経BP社、2014年 野中郁次郎・徳岡晃一郎、『ビジネスモデル・イノベーション』、東洋経済新報社、2012年	

参考書:必要に応じて講義中に紹介する

[評価方法]

(1)試験・テストについて

試験・テストは実施しない

(2)試験以外の評価方法

学生の報告の内容、レポートなどの提出物、議論やグループワーク等を評価する

(3)成績の配分・評価基準等

報告内容の評価:50%、提出物の評価:30%、議論の評価:20%

報告内容:各授業テーマの理解度、プレゼン資料などの発表方法を見る。

提出物の評価:レポートや課題を課し、それらが指示通りの内容か、深く考えられているか、思考を発展させてまとめられているか、を見る。

議論の評価:論理性、妥当性、意欲を見る。

[準備学習]

事前学習:次回の授業内容に該当する部分について調査し、疑問点などをまとめる。(90分)

事後学習:前回のノートや配布したプリント等を参考にして復習する。授業内容に関連したニュースに対して、学習した知識を用いて分析する。(150分)

[科目の位置づけと他科目との関連]

経営学特論や経営組織論特論を合わせて受講することが望ましい。

[担当教員へのアクセス]

研究室:3号棟1階3111室

メールアドレス: kinaba@isenshu-u.ac.jp

[オフィスアワー]

時間帯:随時受付

場所:研究室(3号棟1階3111室)

※研究室を訪問する際は、前もって連絡すること

経営組織論特論 (Business Organization)

担当者	教授 杉田 博
[単位・開講期]	
4単位・通年	
[授業概要]	
H.A.サイモンの論理実証主義やコンティンジェンシー論者の研究スタイルに代表されるように、経営学は客観的な機能主義の立場にある。しかし、19世紀から20世紀初頭の欧米では、主観的なプロセス思想が芽生え、それをもとにした組織研究も行われたし、また1970年以降になると機能主義的発想に対するアンチテーゼとして、経営組織の解釈主義的研究が数多く登場した。 本授業では、まず経営学の目指すものは何かを捉え、次いで、機能主義と解釈主義の経営学とその意義について学ぶことを目的としたい。	
[到達目標]	
経営組織の機能主義的研究と解釈主義的研究の双方の研究方法を理解することができる。	
<授業の方法>	
[授業形態]	
[対面形式]	
教科書を輪読し、その後、ディスカッションを行う。	
[授業計画(前期)]	
(1) 組織の合理性と非合理性 [対面]	
(2) 組織の合理性と非合理性 [対面]	
(3) 組織の合理性と非合理性 [対面]	
(4) 組織の構造 [対面]	
(5) 組織の構造 [対面]	
(6) 組織の構造 [対面]	
(7) 組織化のプロセス [対面]	
(8) 組織化のプロセス [対面]	
(9) 組織化のプロセス [対面]	
(10) 組織と環境 (組織認識論) [対面]	
(11) 組織と環境 (組織認識論) [対面]	
(12) 組織と環境 (組織認識論) [対面]	
(13) 組織行動 (マイクロ組織論) [対面]	
(14) 組織行動 (マイクロ組織論) [対面]	
(15) 組織行動 (マイクロ組織論) [対面]	
[授業計画(後期)]	
(16) 組織の合理性と非合理性 [対面]	
(17) 組織の合理性と非合理性 [対面]	
(18) 組織の合理性と非合理性 [対面]	
(19) 組織の構造 [対面]	
(20) 組織の構造 [対面]	
(21) 組織の構造 [対面]	
(22) 組織化のプロセス [対面]	
(23) 組織化のプロセス [対面]	
(24) 組織化のプロセス [対面]	
(25) 組織と環境 (組織認識論) [対面]	
(26) 組織と環境 (組織認識論) [対面]	
(27) 組織と環境 (組織認識論) [対面]	
(28) 組織行動 (マイクロ組織論) [対面]	
(29) 組織行動 (マイクロ組織論) [対面]	
(30) 組織行動 (マイクロ組織論) [対面]	
[アクティブラーニング取り入れ状況]	
発表とディスカッションを行う。	
[課題に対するフィードバック方法]	
授業中に課題に対する説明を行う。	
[教科書・参考書等]	
教科書:授業時に指示する。	
参考書:授業時に指示する。	
[評価方法]	
(1)試験・テストについて	

(2)試験以外の評価方法

(3)成績の配分・評価基準等

教科書を輪読する。発表担当者については、レジュメ、発表態度等を評価する。それ以外の学生については、質問の頻度等を評価する。出席重視。発表担当者の当日欠席は言語道断である。

[準備学習]

事前学習:発表レジュメ作成(120分)

事後学習:関連文献を読む(120分)

[授業以外の学習方法]

古典と呼ばれる書物を(難解だが)紐解いてみよう。

[科目の位置づけと他科目との関連]

本授業ではさまざまな学説を検討するが、それらは他の経営学関連科目でも取り上げられると思う。キーワードを見つけて科目と科目との関連を意識したい。

[担当教員へのアクセス]

研究室:3号館2階 3219号室

[オフィスアワー]

時間帯:木曜日 2 時限・昼休み・3 時限

場所:3号館2階 3219号室

[備考]

授業内容に関する質問は 3219 教室で随時受け付ける。

労務管理論特論 (Personnel and Labor Management)

担当者	
[単位・開講期] 4単位・通年 [授業概要] 令和6年度入学者に対しては、非開講。 [到達目標] <授業の方法> [授業形態] [授業計画(前期)] [アクティブラーニング取り入れ状況] [課題に対するフィードバック方法] [教科書・参考書等] [評価方法] [準備学習] [科目の位置づけと他科目との関連] [担当教員へのアクセス] [オフィスアワー]	[授業計画(後期)]

マーケティング論特論 (Advanced Marketing)

担当者	教授 李 東勲		
[単位・開講期] 4単位・通年 [授業概要] マーケティングは、もはや一部の企業だけの課題ではなく、殆どの企業にとっても共通した課題となっている。しかし、今日のマーケティングは、大企業を対象として発展してきたといっても過言ではない。この状況に鑑みながら、本授業では、中小企業を対象とし、マーケティングに関する専門的な関心を通して理論的な側面と実践的な側面をバランスよく研究できるように指導する。要するに、今日の中小企業のマーケティング活動を理論的に考察しながら、実践的な諸課題について研究していく予定である。 [到達目標] 本授業は、マーケティングの専門知識を研究することで、国際感覚を磨くと共に、世の中の変化を的確に把握し経営に反映させていく思考力の育成を目標とする。 <授業の方法> [授業形態]:【対面形式】 教科書の輪読やケーススタディの際には、発表担当者を決め、担当部分の内容をまとめて説明してもらい、それを土台にグループワークを行う。 <table border="0" data-bbox="165 985 1404 1545"> <tr> <td data-bbox="165 985 782 1545"> [授業計画(前期)] 1. ガイダンスー研究の仕方について【対面】 2. マーケティングの基礎と消費者行動分析【対面】 3. 流通戦略【対面】 4. コミュニケーション戦略【対面】 5. 物流戦略【対面】 6. 中小企業の経営戦略【対面】 7. 中小企業と大企業の相違点【対面】 8. 中小企業の経営分析【対面】 9. 韓国と米国におけるベンチャー企業【対面】 10. 起業家と経営戦略【対面】 11. 小零細小売業の定義と現状【対面】 12. 小零細小売業に関する既存研究の考察【対面】 13. 経営目的からみる小零細小売業の分析【対面】 14. 流通政策【対面】 15. 日本における商店街の問題【対面】 </td><td data-bbox="782 985 1404 1545"> [授業計画(後期)] 1. ガイダンスー研究の仕方について【対面】 2. マーケティングの基礎と消費者行動分析【対面】 3. 流通戦略【対面】 4. コミュニケーション戦略【対面】 5. 物流戦略【対面】 6. 中小企業の経営戦略【対面】 7. 中小企業と大企業の相違点【対面】 8. 中小企業の経営分析【対面】 9. 韓国と米国におけるベンチャー企業【対面】 10. 起業家と経営戦略【対面】 11. 小零細小売業の定義と現状【対面】 12. 小零細小売業に関する既存研究の考察【対面】 13. 経営目的からみる小零細小売業の分析【対面】 14. 流通政策【対面】 15. 日本における商店街の問題【対面】 </td></tr> </table> [アクティブラーニングの取り入れ状況] 修士課程において既存研究のレビューは研究を進める上で、必ず行わなければならない作業である。よって、本講義ではレビューにおいて絶対必要な「問題発見と解決能力」の養成を念頭におきながら、講義の理解度を確認するために「各企業が目まぐるしく変化する環境にどのように対応して成功したのか、または失敗したのか」などの事例を調査し、講義内容に基づいて分析・評価するレポートを課す予定である。 [課題に対するフィードバック方法] 教科書やケーススタディの内容、さらにアクティブラーニングの課題などが現場ではどう利用されるのか、またどう応用すれば良いのかについて議論しながら解説する。 [教科書・参考書等] 教科書:		[授業計画(前期)] 1. ガイダンスー研究の仕方について【対面】 2. マーケティングの基礎と消費者行動分析【対面】 3. 流通戦略【対面】 4. コミュニケーション戦略【対面】 5. 物流戦略【対面】 6. 中小企業の経営戦略【対面】 7. 中小企業と大企業の相違点【対面】 8. 中小企業の経営分析【対面】 9. 韓国と米国におけるベンチャー企業【対面】 10. 起業家と経営戦略【対面】 11. 小零細小売業の定義と現状【対面】 12. 小零細小売業に関する既存研究の考察【対面】 13. 経営目的からみる小零細小売業の分析【対面】 14. 流通政策【対面】 15. 日本における商店街の問題【対面】	[授業計画(後期)] 1. ガイダンスー研究の仕方について【対面】 2. マーケティングの基礎と消費者行動分析【対面】 3. 流通戦略【対面】 4. コミュニケーション戦略【対面】 5. 物流戦略【対面】 6. 中小企業の経営戦略【対面】 7. 中小企業と大企業の相違点【対面】 8. 中小企業の経営分析【対面】 9. 韓国と米国におけるベンチャー企業【対面】 10. 起業家と経営戦略【対面】 11. 小零細小売業の定義と現状【対面】 12. 小零細小売業に関する既存研究の考察【対面】 13. 経営目的からみる小零細小売業の分析【対面】 14. 流通政策【対面】 15. 日本における商店街の問題【対面】
[授業計画(前期)] 1. ガイダンスー研究の仕方について【対面】 2. マーケティングの基礎と消費者行動分析【対面】 3. 流通戦略【対面】 4. コミュニケーション戦略【対面】 5. 物流戦略【対面】 6. 中小企業の経営戦略【対面】 7. 中小企業と大企業の相違点【対面】 8. 中小企業の経営分析【対面】 9. 韓国と米国におけるベンチャー企業【対面】 10. 起業家と経営戦略【対面】 11. 小零細小売業の定義と現状【対面】 12. 小零細小売業に関する既存研究の考察【対面】 13. 経営目的からみる小零細小売業の分析【対面】 14. 流通政策【対面】 15. 日本における商店街の問題【対面】	[授業計画(後期)] 1. ガイダンスー研究の仕方について【対面】 2. マーケティングの基礎と消費者行動分析【対面】 3. 流通戦略【対面】 4. コミュニケーション戦略【対面】 5. 物流戦略【対面】 6. 中小企業の経営戦略【対面】 7. 中小企業と大企業の相違点【対面】 8. 中小企業の経営分析【対面】 9. 韓国と米国におけるベンチャー企業【対面】 10. 起業家と経営戦略【対面】 11. 小零細小売業の定義と現状【対面】 12. 小零細小売業に関する既存研究の考察【対面】 13. 経営目的からみる小零細小売業の分析【対面】 14. 流通政策【対面】 15. 日本における商店街の問題【対面】		

(前期) 宮脇敏哉著『マーケティングと中小企業の経営戦略』産業能率大学出版部、2008
(後期) 近藤文男、陶山計介、青木俊昭著『21 世紀のマーケティング戦略』ミネルヴァ書房、2001
フィリップ・コトラー著木村達也訳『コトラーの戦略的マーケティング』ダイヤモンド社、2008

[評価方法]

(1) 試験・テストについて

筆記試験は実施しない。

(2) 試験以外の評価方法

本授業の評価基準は参加状況と発言頻度、発言内容、発表レジュメなどを総合的に判断し評価する。よって、十分な準備をしていない場合や発言しない人は評価が低くなる。

(3) 成績の配分・評価基準等

受講学生の分担によって授業を進めるので、以下の 3 つの視点を総合的に判断して、平常点として評価する。①報告の内容(35%)、②ディスカッションの際の態度(35%)、③中間報告ならびに最終報告の内容(30%)

[準備学習]

事前学習: 本授業は参加型の形式をとり、理解力だけではなく探究力や表現力を養うことを目指す。

したがって、絶えず新聞、雑誌などに目を通して授業に参加することを求める。また、教科書をしっかり講読し、問題意識・質問を用意しなければならない。よって、教科書の内容を的確に理解するため、関連資料を調べることも求める。(120 分)

事後学習: 本授業では、理解力・探究力・行動力を身につけるために礎となる基本知識を学ぶので、その日勉強した内容をまず覚えるように努めなければならない。そして、授業内容と関連する事例を調べてその理解度を向上させるように取り組むことを求める。(120 分)

[授業以外の学習方法]

教科書の内容を的確に理解するため、関連資料を調べることが必要である。特に、新聞・雑誌などは絶えず目を通して欲しい。

[科目の位置づけと他科目との関連]

マーケティングは、企業が持続的な成長を続ける上で、重要な戦略である。したがって、マーケティング特論を受講するに当たっては、修士課程に配置されている科目を総合的に勉強する必要がある。

[担当教員へのアクセス]

研究室: 3号館2階 3210 号室

メールアドレス: ldh3210@isenshu-u.ac.jp

[オフィスアワー]

時間帯: 随時対応する。

場所: 3号館2階 3210 号室

メール(ldh3210@isenshu-u.ac.jp)で事前に会う約束を取るようして下さい。

[備考]

院生の研究関心によっては相談の上で、教科書や授業内容を決定する。よって、上述した授業計画は受講生の関心によって変更可能であり、一つの例である。

金融論特論 (Advanced Money and Banking)

担当者	教授 茂木 克昭
[単位・開講期] 4単位・通年	
[授業概要] 前期は、わが国の金融政策に焦点をあて、特に近年のゼロ金利政策などの経験を考える。教科書（白川）は日銀の実務者（現総裁）の手になるもので、実際の金融政策運営の機微を理解することができよう。 後期には、国際金融論の分野について、金本位制からユーロの登場まで、国際通貨制度の史的展開に焦点をあてる。教科書は Barry Eichengreen の“Global Capital”を用いる。	
[到達目標] 金融論・国際金融論の分野の専門的な議論を理解することを目標とする。	
<授業の方法>	
[授業形態]	
[対面形式]	
通常の授業形態で、テキストの理解を質疑応答を通じて達成する。	
[授業計画(前期)] (1) ガイダンスおよび金融政策の目標の概説 [対面] (2) 金融政策の目標①[対面] (3) 金融政策の目標②[対面] (4) 金融政策の決定①[対面] (5) 金融政策の決定②[対面] (6) 金利の誘導①[対面] (7) 金利の誘導②[対面] (8) 金融政策の運営①[対面] (9) 金融政策の運営②[対面] (10) 適切な金融政策①[対面] (11) 適切な金融政策②[対面] (12) 近年の金融政策運営をめぐる論点① [対面] (13) 近年の金融政策運営をめぐる論点② [対面] (14) 金融政策運営の課題①[対面] (15) 金融政策運営の課題②[対面]	[授業計画(後期)] (16) ガイダンスおよび金融政策の目標の概説 [対面] (17) 金融政策の目標①[対面] (18) 金融政策の目標②[対面] (19) 金融政策の決定①[対面] (20) 金融政策の決定②[対面] (21) 金利の誘導①[対面] (22) 金利の誘導②[対面] (23) 金融政策の運営①[対面] (24) 金融政策の運営②[対面] (25) 適切な金融政策①[対面] (26) 適切な金融政策②[対面] (27) 近年の金融政策運営をめぐる論点① [対面] (28) 近年の金融政策運営をめぐる論点② [対面] (29) 金融政策運営の課題①[対面] (30) 金融政策運営の課題②[対面]
[アクティブラーニングの取り入れ状況] 金融の時事問題に関する勉強と理解を要請する場合がある。	
[課題に対するフィードバック方法] レジューメ作成を通じ、事前理解を要請する。授業において、フードバックする。	
[教科書・参考書等] 教科書：白川 方明「現代の金融政策 理論と実際」、日本経済新聞出版社（2008 年） Barry Eichengreen, “Global Capital”, Second Edition, Princeton University Press (2008) 参考書：適宜推奨する。	

[評価方法]

(1)試験・テストについて

実施しない。

(2)試験以外の評価方法

授業における取組状況を評価する。

(3)成績の配分・評価基準等

受講者は、毎回レポートを作成し報告し、そのうえで討議するやり方をとる。この過程を通じて理解度を評価する。

[準備学習]

事前学習：金融論・国際金融論の学部レベルのテキストを理解しておくことが望ましい。(30 分)

事後学習：金融論・国際金融論の学部レベルのテキストを理解しておくことが望ましい。(30 分)

[科目の位置づけと他科目との関連]

本授業の内容は、金融の分野に関するマクロ的な内容であり、直接実務に結びつくものではないが、経営学や会計学の研究における基礎と認識することが必要である。

[担当教員へのアクセス]

研究室：3号館2階 3201 号室

メールアドレス：kmogi@isenshu-u.ac.jp

[オフィスアワー]

時間帯：月・水の午後

場所：研究室(3 号館 2 階 3201 号室)

[備考]

受講についての相談は、3 号館 2 階 3201 号室にて随時対応する。メールにてアポをとるようにしてください。
メールアドレス：kmogi@isenshu-u.ac.jp

国際比較経営論特論(Advanced International Comparative Management)

担当者	教授 丸岡 泰
[単位・開講期] 4単位・通年 [授業概要] 本授業では、主に日本を含む東アジアと米州の多様な主要企業を取り上げる。 議論の出発点として、前期にはレイモンド・ヴァーノンのプロダクト・サイクル論、後期には世界銀行の『東アジアの奇跡』を参加者の間で共有する。その後、それぞれの理論の適用できる企業の事例を選び精査する。企業の選択は、できるだけ参加者の関心に合わせるようにする。 [到達目標] プロダクト・サイクル論と東アジアの奇跡の要点を理解する。東アジア諸国・ラテンアメリカ諸国の開発戦略と各国の代表的企業の成長との関連を理解する。 <授業の方法> [授業形態] 【対面形式】を基本とするが、参加者との相談の上【非対面形式】の同時双方向型を取る場合もある。 学生の報告と議論を中心に授業を進める。 [授業計画(前期)] (1)ガイダンス[対面] (2)～(4)教科書(Vernon)の講読[対面] (5)～(14) 繊維、自動車など主に製造業から参加者の関心に応じて企業を選択・精査[対面] (15)前期のまとめ[対面] [授業計画(後期)] (1)ガイダンス[対面] (2)～(4)教科書(Vernon)の講読[対面] (5)～(14) 繊維、自動車など主に製造業から参加者の関心に応じて企業を選択・精査[対面] (15)前期のまとめ[対面] [アクティブラーニングの取り入れ状況] 授業での報告・議論。 [課題に対するフィードバック方法] 報告へのコメント・議論。 [教科書・参考書等] Raymond Vernon “International Trade and International Investment in the Product Cycle,” Quarterly Journal of Economics, Volume 80, Issue 2, May 1966 World Bank East Asian Miracle: economic growth and public policy, 1993 [評価方法] (1)試験・テストについて 試験・テストは行わない。 (2)試験以外の評価方法 授業での報告の質を評価する。 (3)成績の配分・評価基準等 授業への準備と参加を重視する。 [準備学習] 事前学習：指定文献の指定箇所を読むとともに関心のある企業を選択し、報告の準備をすること。(120分) 事後学習：指定文献の内容と選択した企業の情報を復習すること。(120分) [科目の位置づけと他科目との関連]	

本科目は担当者の学部開講科目「国際経済論」など経済学関連科目の延長上にある。また、前期の議論は「産業観光論」でも紹介されている。未履修者はこれらの授業の教科書・参考文献に目を通し、基本的な議論を押さえておくこと。

[担当教員へのアクセス]

研究室:3号館2階 3215 号室

[オフィスアワー]

時間帯:メール等でのアポに応じ実施。

maruoka(a)isenshu-u.ac.jp <(a)はアットマークに>

場所:研究室。

地域経営論特論 (Advanced Regional Management)

担当者	教授 庄子 真岐
[単位・開講期] 4単位・通年	
[授業概要] 人口減少、少子高齢化、産業の空洞化など地域経済を取り巻く環境は厳しさを増している。このような状況下において、地域に関わる複数の主体が連携しながら、地域の特徴を生かした地域づくりに活路を見出す地域も出てきている。現場では、地域資源等を活用した事業立案および地域で活動する様々な主体と連携し、事業を進めるマネジメントする能力が求められている。本授業では、これらの力を養成するため、地域経済を多角的に分析する手法を学び、地域の特徴を客観的に捉える力を身につける。さらに、国内外の多くのケーススタディを通じて、地域のマーケティングおよび地域経済におけるマネジメント組織の役割を理解する。最終的には、特定した地域の地域振興プランの策定を試みる。	
[到達目標] 本科目の到達目標は、地域社会が抱える構造的問題を把握するとともに、地域振興策を企画立案、実施するために必要な考え方を習得する。	
<授業の方法>	
[授業形態]	
【対面形式】	
テーマに基づいた内容の文献、調査資料を予習課題として提示する。	
[授業計画(前期)] (1) 授業ガイダンス、地域社会の現状 [対面] (2) 地域研究の手法(1)[対面] (3) 地域研究の手法(2)[対面] (4) 地域社会の分析(1)[対面] (5) 地域社会の分析(2)[対面] (6) 地域のマーケティング(1)[対面] (7) 地域のマーケティング(2)[対面] (8) 地域のマーケティング(3)[対面] (9) 地域のマーケティング(4)[対面] (10) 地域のマーケティング(5)[対面] (11) 地域ブランド(1)[対面] (12) 地域ブランド(2)[対面] (13) 地域ブランド(3)[対面] (14) 地域ブランド(4)[対面] (15) 地域ブランド(5)[対面]	[授業計画(後期)] (16) 授業ガイダンス、地域社会の現状[対面] (17) 地域研究の手法(1)[対面] (18) 地域研究の手法(2)[対面] (19) 地域社会の分析(1)[対面] (20) 地域社会の分析(2)[対面] (21) 地域のマーケティング(1)[対面] (22) 地域のマーケティング(2)[対面] (23) [対面]地域のマーケティング(3)[対面] (24) 地域のマーケティング(4)[対面] (25) 地域のマーケティング(5)[対面] (26) 地域ブランド(1)[対面] (27) 地域ブランド(2)[対面] (28) 地域ブランド(3)[対面] (29) 地域ブランド(4)[対面] (30) 地域ブランド(5)[対面]
[アクティブラーニングの取り入れ状況]	
提示された文献や調査資料の内容を受講生がまとめ、発表する。	
発表内容について教員が補足説明した後、ディスカッションを行う。	
[課題に対するフィードバック方法]	
文献購読のまとめ、プレゼンテーション、レポート課題については、評価表(ルーブリック)を用いて相互評価を行い、講義内でフィードバックする。	
[教科書・参考書等]	
教科書：なし。随時プリントを配布する。	

[評価方法]**(1)試験・テストについて**

試験は実施しない。前期後期2回のレポートを課す。

(2)試験以外の評価方法

プレゼンテーション、文献購読、授業への貢献度（ディスカッションへの積極的参加）により評価する。

(3)成績の配分・評価基準等

本科目は、プレゼンテーション（40%）・文献購読、レポート課題（40%）・授業への貢献度（20%）によって評価する。

[準備学習]

事前学習：提示された文献、調査資料を読み込み、発表資料としてまとめること。

事後学習：授業中の論点に応じた文献を紹介するので、しっかり読み込んでおくこと。

[科目の位置づけと他科目との関連]

経営学に類する科目の多くは、本科目の内容と関連する。とくに、「マーケティング論特論」は、関連性が強いと考えられる。

[担当教員へのアクセス]

研究室：3号館 1 階 3104 号室（事前にアポを取る）

Teams チャットで随時対応

[オフィスアワー]

時間帯：火から木 昼休み

場所：3号館 1 階 3104 号室、オンライン

会社法特論 (Corporation Law)

担当者	教授 三森 敏正
[単位・開講期] 4単位・通年 [授業概要] 本講では判例の詳細な分析および米独の会社法との比較を通じて、2020 年に改正された会社法の理解を深めていくことを目的とする。授業は演習方式で、毎週担当者が課題についてレポートを行い、それをもとに議論を行う形式で行う。 [到達目標] 会社法の主要な判例と論点の理解。 <授業の方法> [授業形態] [対面形式] 演習方式。 [授業計画(前期)] (1) 会社の能力と目的の範囲[対面] (2) 法人格の否認[対面] (3) 設立中の会社[対面] (4) 設立の瑕疵と責任[対面] (5) 株主平等原則[対面] (6) 株式の内容と種類[対面] (7) 株式譲渡制限[対面] (8) 自己株式[対面] (9) 名義書換未了の株式譲渡人の地位[対面] (10) 名義書換の不当拒絶[対面] (11) 募集株式の有利発行[対面] (12) 募集株式の不公正発行[対面] (13) 新株発行無効[対面] (14) 株主総会の代理人資格の制限[対面] (15) 株主総会招集通知の欠缺[対面] [授業計画(後期)] (16) 会社の能力と目的の範囲[対面] (17) 法人格の否認[対面] (18) 設立中の会社[対面] (19) 設立の瑕疵と責任[対面] (20) 株主平等原則[対面] (21) 株式の内容と種類[対面] (22) 株式譲渡制限[対面] (23) 自己株式[対面] (24) 名義書換未了の株式譲渡人の地位[対面] (25) 名義書換の不当拒絶[対面] (26) 募集株式の有利発行[対面] (27) 募集株式の不公正発行[対面] (28) 新株発行無効[対面] (29) 株主総会の代理人資格の制限[対面] (30) 株主総会招集通知の欠缺[対面] [アクティブラーニングの取り入れ状況] アクティブラーニングを取り入れている。 [課題に対するフィードバック方法] レポートについて講評し、必要に応じて添削して返却する。 [教科書・参考書等] 教科書：別冊ジュリスト 会社法判例百選〔第 4 版〕 参考書：神田秀樹著 会社法〔第 23 版〕 弘文堂、江頭憲治郎著 株式会社法〔第 8 版〕 [評価方法] (1) 試験・テストについて 実施しない。 (2) 試験以外の評価方法 毎回の授業における報告の準備状況および議論への貢献度。 (3) 成績の配分・評価基準等	

報告内容6割 出席4割

[準備学習]

事前学習:履修者は、レポーターである与否とに関わらず、各自教科書に記載されている判例・文献に目を通した上で授業に出席すること。(150分)

事後学習:会社法は民法の特別法であるので、民法の知識は必須である。民法の知識が不十分な場合には、各自民法の基本書などを読むなどして理解しておくこと。(120分)

[科目の位置づけと他科目との関連]

学部において、財産と法、企業組織と法、株式と法の単位を修得していることを履修条件とする。

[担当教員へのアクセス]

研究室:3号館1階3123号室

[オフィスアワー]

時間帯:随時。

場所:3号館1階3123号室

経営学演習 (Seminar of Advanced Business Management)

担当者	専任教員
[単位・開講期] 8単位(2年間) [授業概要] 「経営学演習」では、「経営学」という専攻分野の枠内で、それぞれの演習担当教員が担当する授業科目と結びつく研究分野を中心としながらも限定されることなく、各担当教員の実際の研究領域に関連するテーマについて、修士論文作成のための研究指導を行う。学生には、志望する演習担当教員との面談機会を提供し、各教員の担当する授業科目を参考にしながら、自分の関心に対応する指導が受けられる教員を、指導教員として選べるような機会を提供する。 各々のテーマを設定した学生は、演習担当教員の指導のもと、文献の講読、資料の収集、調査分析等を行い、適当な時期に発表・討論しながら、さらにその研究を深めていき、最終的には修士論文の作成へと繋げる。 [到達目標] 研究書を読破し、プレゼンをできる。 <授業の方法> [授業形態] 【対面形式】【非対面形式】指導教員の指示に基づく。 [授業計画] 1. 演習の初回に説明を行う。 [授業計画] 2. 演習の初回に説明を行う。 [アクティブラーニングの取り入れ状況] 報告とその質疑応答。 [課題に対するフィードバック方法] 質疑応答によるフィードバック。 [教科書・参考書等] 教科書：別途指示する。 参考書： [評価方法] (1)試験・テストについて 指導教員の指示に基づく。 (2)試験以外の評価方法 報告に関する質疑の内容。 (3)成績の配分・評価基準等 発表・討論等の状況を総合的に評価する。 [準備学習] 事前学習：論文テーマに関する文献調査、報告準備。(120分) 事後学習：報告した内容の精査。(120分) [科目の位置づけと他科目との関連] 経営学演習は、教員の指導の下、修士論文を仕上げるのが目的であり、教員と相談の上、他科目の受講等、行うべきである。 [担当教員へのアクセス]	

研究室:指導教員の指示に基づく。

[オフィスアワー]

時間帯:指導教員の指示に基づく。

場所:指導教員の指示に基づく。

会計学原理特論 (Advanced Accounting Theory)

担当者	教授 関根 慎吾
[単位・開講期] 4単位・通年	
[授業概要] 一連の会計規制の改革で、簿記会計の世界は大きく様変わりしている。本授業ではこのような簿記会計を取り巻く環境の変化のなかで、特に会計に係る諸問題を検討していく。とはいえ、簿記と会計は密接に関連しており、厳密に分けることは困難になっている。したがって授業では会計の諸問題に限らず、簿記の諸問題にも検討を加えていくことになる。	
[到達目標] 高度な会計、特に財務諸表に関する諸問題について、その処理方法のみならず、その考え方についても理解を深め、類似する他の諸問題への対処するためのアイデアを提示できるようになる。	
<授業の方法>	
[授業形態]	
【対面形式】 授業内容の説明と報告による質疑応答。	
[授業計画(前期)] (1) [対面] 財務諸表の全体構造 (2) [対面] 一般原則 (3) [対面] 損益計算論 (4) [対面] 棚卸資産会計 (5) [対面] 有形固定資産会計 (6) [対面] 無形固定資産会計 (7) [対面] 引当金会計 (8) [対面] 会計学総合演習(1)ー財務諸表の作成 (9) [対面] 概念フレームワーク (10) [対面] 金融商品会計(1)ー有価証券 (11) [対面] 金融商品会計(2)ー金融派生商品 (12) [対面] リース会計 (13) [対面] 有形固定資産(2)ー減損 (14) [対面] リース会計 (15) [対面] 減損会計	[授業計画(後期)] (16) [対面] 財務諸表の全体構造 (17) [対面] 一般原則 (18) [対面] 損益計算論 (19) [対面] 棚卸資産会計 (20) [対面] 有形固定資産会計 (21) [対面] 無形固定資産会計 (22) [対面] 引当金会計 (23) [対面] 会計学総合演習(1)ー財務諸表の作成 (24) [対面] 概念フレームワーク (25) [対面] 金融商品会計(1)ー有価証券 (26) [対面] 金融商品会計(2)ー金融派生商品 (27) [対面] リース会計 (28) [対面] 有形固定資産(2)ー減損 (29) [対面] リース会計 (30) [対面] 減損会計
[アクティブラーニングの取り入れ状況] 報告と質疑応答。	
[課題に対するフィードバック方法] 質疑応答によるフィードバック。	
[教科書・参考書等] 教科書：桜井久勝著『財務会計講義』、中央経済社、4000 円 参考書：随時指示する。	
[評価方法] (1) 試験・テストについて 行わない。	

(2)試験以外の評価方法

報告に関する質疑の内容。

(3)成績の配分・評価基準等

日頃のレポートや各種の演習課題の成績によって、総合的に評価する。

[準備学習]

事前学習:報告準備のための文献調査。(120分)

事後学習:報告した内容の精査。(120分)

受講生には分担してテキストの内容を報告してもらうが、報告者のみならず全ての受講者が報告者のつもりで、授業に望んでもらいたい。そのためには、テキストの予習および復習ならびに授業中にでたトピックスについての検討を行い、次回の授業で発表してもらう。また、テキストとは別に、簿記会計の諸問題について、税理士試験財務諸表論レベルの問題に取り組む。

[科目の位置づけと他科目との関連]

簿記は会計の諸科目と密接な関連があることから、簿記論特論、管理会計論特論で勉強する内容もまた、会計学原理特論での勉強に役立つはずである。また、租税論特論は主に税務を扱うものであるが、会計に関する知識を有していることを前提に進められるので、本授業での学習は必要である。

[担当教員へのアクセス]

研究室:3号館2階 3218号室

[オフィスアワー]

時間帯:随時受け付ける。

場所:3号館2階 3218号室

管理会計論特論 (Advanced Management Accounting)

担当者	准教授 田村 真介
[単位・開講期] 4単位・通年	
[授業概要] 伝統的管理会計の理論と技術を系統的に再確認し、管理会計上の新しい諸問題に挑戦するための手掛かりを身につけていただくべく授業を進めようと考えている。また管理会計における基礎的トピックスから応用的トピックスにわたる事項も随時授業に組み込んでゆこうと考えている。	
[到達目標] 経営管理および管理会計分野の修士論文の作成を志す学生諸君に役立つ知識を身につけるとともに、税理士、公認会計士等の会計専門職の資格をねらう学生諸君の計算能力の向上に資することを目標としている。	
<授業の方法>	
[授業形態]	
【対面形式】 教科書、授業計画の各テーマのレポート、およびテーマに関連する学術論文等をもとに授業を進めていく。	
[授業計画(前期)] (1) ガイダンスおよび管理会計の基礎[対面] (2) 管理会計総説[対面] (3) 管理会計の体系—過去と現在[対面] (4) 企業倫理と管理会計担当者の倫理的行動規範[対面] (5) 問題発見のための会計[対面] (6) 財務諸表分析—総説[対面] (7) 財務諸表分析—収益性・安全性・生産性分析[対面] (8) キャッシュフローの分析—総説[対面] (9) キャッシュフロー計算書の目的と構成[対面] (10) キャッシュフロー計算書の作成[対面] (11) 会社法と財務諸表分析[対面] (12) 短期利益計画のためのCVP分析[対面] (13) CVP分析の必要性[対面] (14) CVP分析の基本公式[対面] (15) 固定費と経営リスク[対面]	[授業計画(後期)] (1) ガイダンスおよび管理会計の基礎[対面] (2) 管理会計総説[対面] (3) 管理会計の体系—過去と現在[対面] (4) 企業倫理と管理会計担当者の倫理的行動規範[対面] (5) 問題発見のための会計[対面] (6) 財務諸表分析—総説[対面] (7) 財務諸表分析—収益性・安全性・生産性分析[対面] (8) キャッシュフローの分析—総説[対面] (9) キャッシュフロー計算書の目的と構成[対面] (10) キャッシュフロー計算書の作成[対面] (11) 会社法と財務諸表分析[対面] (12) 短期利益計画のためのCVP分析[対面] (13) CVP分析の必要性[対面] (14) CVP分析の基本公式[対面] (15) 固定費と経営リスク[対面]
[アクティブラーニングの取り入れ状況] アクティブラーニングは実施しない。	
[課題に対するフィードバック方法] フィードバックとしてレポートにコメントを返す。	
[教科書・参考書等] 教科書：岡本清・廣本敏郎・尾畑裕・挽文子著『管理会計(第2版)』中央経済社 参考書：岡本清著『原価計算』国元書房	
[評価方法] (1) 試験・テストについて 実施しない。 (2) 試験以外の評価方法	

レポート、ディスカッション。

(3)成績の配分・評価基準等

レポートと授業中のディスカッションを総合的に判断して評価する。

(レポート 70%、ディスカッション 30%)

[準備学習]

事前学習:事前に課題を提示し、その課題に対する自分なりの考えを纏めてもらい、

授業時にその結果をレポートとして提示してもらう。(120 分)

事後学習:レポートの不足な点を補う。また、テーマに関連する学術論文等を読了する。(120 分)

[科目の位置づけと他科目との関連]

本授業は、経営管理、財務管理、財務会計等の知識を基礎としているので、経営管理論特論、会計学原理特論等の授業をあわせて履修することが望ましい。

[担当教員へのアクセス]

研究室:3号館1階 3108 号室

[オフィスアワー]

時間帯:月曜日 13:30~15:00

場所:3号館1階 3108 号室

簿記論特論 (Advanced Book-keeping Theory)

担当者	教授 関根 慎吾
[単位・開講期] 4単位・通年	
[授業概要] 一連の会計規制の改革で、簿記会計の世界は大きく様変わりしている。本授業ではこのような簿記会計を取り巻く環境の変化のなかで、特に簿記に係る諸問題を検討していく。とはいえ、簿記と会計は密接に関連しており、厳密に分けることは困難になっている。したがって授業では簿記の諸問題に限らず、会計の諸問題にも検討を加えていくことになろう。 また、コンピュータと簿記会計のかかわりについても検討する予定である。	
[到達目標] 高度な簿記の諸問題について、その処理方法のみならず、その考え方についても理解を深め、類似する他の諸問題への対処方法を身につける。	
<授業の方法>	
[授業形態]	
[対面形式] 授業内容の説明と報告による質疑応答。	
[授業計画(前期)] (1) [対面] 財務諸表の体系 (2) [対面] 利益計算の仕組み (3) [対面] 現金預金 (4) [対面] 有価証券 (5) [対面] デリバティブとヘッジ会計 (6) [対面] キャッシュフロー計算書 (7) [対面] 商品売買(1)―販売基準 (8) [対面] 商品売買(2)―回収基準 (9) [対面] 商品売買(2)―生産基準 (10) [対面] 売上債権 (11) [対面] 棚卸資産 (12) [対面] 有形固定資産(1)―減価償却 (13) [対面] 有形固定資産(2)―減損 (14) [対面] リース会計 (15) [対面] 無形固定資産	[授業計画(後期)] (16) [対面] 財務諸表の体系 (17) [対面] 利益計算の仕組み (18) [対面] 現金預金 (19) [対面] 有価証券 (20) [対面] デリバティブとヘッジ会計 (21) [対面] キャッシュフロー計算書 (22) [対面] 商品売買(1)―販売基準 (23) [対面] 商品売買(2)―回収基準 (24) [対面] 商品売買(2)―生産基準 (25) [対面] 売上債権 (26) [対面] 棚卸資産 (27) [対面] 有形固定資産(1)―減価償却 (28) [対面] 有形固定資産(2)―減損 (29) [対面] リース会計 (30) [対面] 無形固定資産
[アクティブラーニングの取り入れ状況] 報告と質疑応答。	
[課題に対するフィードバック方法] 質疑応答によるフィードバック。	
[教科書・参考書等] 教科書：桜井久勝著『財務会計講義』、中央経済社、4000 円 参考書：随時指示する。	
[評価方法] (1) 試験・テストについて 行わない。	

(2)試験以外の評価方法

報告に関する質疑の内容。

(3)成績の配分・評価基準等

日頃のレポートや各種の演習課題の成績によって、総合的に評価する。

[準備学習]

事前学習:報告準備のための文献調査。(120 分)

事後学習:報告した内容の精査。(120 分)

[授業以外の学習方法]

受講生には分担してテキストの内容を報告してもらおうが、報告者のみならず全ての受講者が報告者のつもりで、授業に望んでもらいたい。そのためには、テキストの予習および復習ならびに授業中にでたトピックスについての検討を行い、次回の授業で発表してもらいたい。また、テキストとは別に、簿記の諸問題について勉強しておくことを望む。

[科目の位置づけと他科目との関連]

簿記は会計の諸科目と密接な関連があることから、会計学特論、管理会計論特論で勉強する内容もまた、簿記論特論での勉強に役立つはずである。また、租税論特論は主に税務を扱うものであるが、簿記に関する知識を有していることを前提に進められるので、本授業での学習は必要である。

[担当教員へのアクセス]

研究室:3号館2階 3218 号室

[オフィスアワー]

時間帯:月曜日 4 限目

場所:3号館2階 3218 号室

租税法特論 (Advanced Tax Law)

担当者	教授 岡野 知子
[単位・開講期] 4単位・通年	
[授業概要] ① 租税法の意義と性質の理解 ② 租税法の基本原則である租税法律主義、租税公平主義の内容の理解 ③ 租税実体法の課税要件の理解 ④ 租税判例研究 以上の4項目について下記の授業計画に従い修得する。	
[到達目標] 社会における租税の意義とその重要性を理解したうえで、理論と制度の両面から租税法を修得する	
<授業の方法>	
[授業形態]	
【対面形式】 授業計画に沿った内容の説明と質疑応答。	
[授業計画(前期)] (1) 租税の意義[対面] (2) 租税の根拠[対面] (3) 租税法の意義[対面] (4) 租税制度の沿革[対面] (5) 租税法の基本原則 ①(租税法律主義)[対面] (6) 租税法の基本原則 ②(租税公平主義)[対面] (7) 租税法の基本原則 ③(自主財政主義)[対面] (8) 租税法の法源[対面] (9) 租税法の解釈と適用[対面] (10) 租税実体法の意義[対面] (11) 租税要件総論①(納税義務者)[対面] (12) 租税法の基本原則②(課税物件)[対面] (13) 租税法の基本原則③(課税標準と税率)[対面] (14) 課税要件各論①(総説)[対面] (15) 課税要件各論②(総説)[対面]	[授業計画(後期)] (16) 租税の意義[対面] (17) 租税の根拠[対面] (18) 租税法の意義[対面] (19) 租税制度の沿革[対面] (20) 租税法の基本原則 ①(租税法律主義)[対面] (21) 租税法の基本原則 ②(租税公平主義)[対面] (22) 租税法の基本原則 ③(自主財政主義)[対面] (23) 租税法の法源[対面] (24) 租税法の解釈と適用[対面] (25) 租税実体法の意義[対面] (26) 租税要件総論①(納税義務者)[対面] (27) 租税法の基本原則②(課税物件)[対面] (28) 租税法の基本原則③(課税標準と税率)[対面] (29) 課税要件各論①(総説)[対面] (30) 課税要件各論②(総説)[対面]
＊各授業では、事前学習(授業のテーマに沿ったレジュメの作成および資料収集)後、授業でディスカッションをおこない、事後学習(授業で習得した内容の復習)をおこなうこと。	
[アクティブラーニングの取り入れ状況] 授業でレジュメ等をもとにディスカッションを行う。	
[課題に対するフィードバック方法] ディスカッション後の提出レポートにコメントを付し返却する。	
[教科書・参考書等] 教科書:金子 宏著 『租税法』第23版 弘文堂 6,500円+税	

参考書:適宜紹介する。

[評価方法]

(1)試験・テストについて

実施しない。

(2)試験以外の評価方法

レジュメ、報告内容、ディスカッション内容・参加度による評価方法。

(3)成績の配分・評価基準等

レジュメ、報告、ディスカッションにより総合的に評価する。

[準備学習]

事前学習:授業のテーマに沿ったレジュメの作成および資料収集。(120分)

事後学習:授業で習得した内容の復習。(120分)

[授業以外の学習方法]

・雑誌掲載論文、書籍、新聞等の資料収集

・レジュメおよび論文の作成方法の習得、Power Point による報告内容の作成およびプレゼンテーションの練習
ディスカッションへの活発な参加

[科目の位置づけと他科目との関連]

会計科目、民法、会社法と密接な関係があるので、併せて受講または研究してほしい。

[担当教員へのアクセス]

研究室:3号館2階3209号室

[オフィスアワー]

時間帯:授業終了後または昼休み

場所:研究室(3号館2階3209号室)

[備考]

質問はメールにても受け付ける。

会計学演習 (Seminar in Accounting)

担当者	専任教員
[単位・開講期] 8単位(2年間) [授業概要] 「会計学演習」では、「会計学」という専攻分野の枠内で、それぞれの演習担当教員が担当する授業科目と結びつく研究分野を中心としながらも限定されることなく、各担当教員の実際の研究領域に関連するテーマについて、修士論文作成のための研究指導を行う。学生には、志望する演習担当教員との面談機会を提供し、各教員の担当する授業科目を参考にしながら、自分の関心に対応する指導が受けられる教員を、指導教員として選べるような機会を提供する。 各々のテーマを設定した学生は、演習担当教員の指導のもと、文献の講読、資料の収集、調査分析等を行い、適当な時期に発表・討論しながら、さらにその研究を深めていき、最終的には修士論文の作成へと繋げる。 [到達目標] 会計学は会計という実務を研究対象とする学問である。したがって、会計の諸問題について、その処理方法自体の理解に努めることは当然のことである。しかしながら、個々の処理方法を理解するだけでは会計行為全体を整合的に理解したとは言えないし、そのようにして作成された財務諸表やその他の会計情報が有用であるとは言えない。有用な会計情報を作成するという観点から、各々の処理方法が持つ意味やその目的を、会計目的観や基礎的な考え方を踏まえて理解することが重要になってくるのである。本授業では、会計の基礎的概念に基づいて会計諸問題を理解することを目標としている。 <授業の方法> [授業形態] 【対面形式】【非対面形式】指導教員の指示に基づく。 演習。 [授業計画] 論文テーマの選定と論文作成のための質疑応答を毎回行う。 [アクティブラーニングの取り入れ状況] 報告とその質疑応答。 [課題に対するフィードバック方法] 質疑応答によるフィードバック。 [教科書・参考書等] 別途指示する。 [評価方法] (1)試験・テストについて 行わない。 (2)試験以外の評価方法 報告に関する質疑の内容。 (3)成績の配分・評価基準等 発表・討論等の状況を総合的に評価する。 [準備学習] 事前学習:論文テーマに関する文献調査、報告準備。(120分) 事後学習:報告した内容の精査。(120分)	

[授業以外の学習方法]

近年、会計を取り巻く環境は大きく変わりつつある。特に IFRS による会計の国際的統合化の過程にあって、国内の会計制度も再構築を迫られている。この過程で導入されてくる新しい会計処理について、基本的な理解が授業の中で求められることになる。専門誌などでこれらの動向については把握しておく必要がある。

[科目の位置づけと他科目との関連]

会計関連の諸科目で学習した内容や会計観をどのように理解したかが、修士論文の作成過程で試されることになる。また、その他の科目でも経営学や金融論などに関する知識も、会計諸問題を理解する上で必要となる。

[担当教員へのアクセス]

研究室：指導教員の指示に基づく。

[オフィスアワー]

時間帯：指導教員の指示に基づく。

場所：指導教員の指示に基づく。

[備考]

本授業についての質問等は、各担当教員に直接問い合わせること。

経営情報論特論 (Advanced Business Information Theory)

担当者	教授 工藤 周平
[単位・開講期] 4単位・通年	
[授業概要] 本講義は、企業経営の視点から経営情報の戦略的価値を正しく理解できる能力を養成することを目的とする。講義では、戦略経営論における企業情報システムの沿革、経営システムに及ぼす経営情報の影響、最新の経営情報活用の現状と将来の展望について学習する。	
[到達目標] 企業経営における経営情報の役割とその重要性を理解し、最新の経営情報活用の現状と課題を把握することを目標とする。	
<授業の方法>	
[授業形態]	
[対面形式] 文献講読、ディスカッションが中心の「授業・演習」形式である。	
[授業計画]	
(1)前期ガイダンス[対面] (2)マネジャーの仕事[対面] (3)マネジャーの仕事についてディスカッション[対面] (4) AI を業務改善に活かす法[対面] (5) AI を業務改善に活かす法についてのディスカッション[対面] (6)アルゴリズムを最大限に活用する法[対面] (7)アルゴリズムを最大限に活用する法についてのディスカッション[対面] (8)AR 戦略:拡張現実の並外れた可能性[対面] (9) AR 戦略:拡張現実の並外れた可能性についてのディスカッション[対面] (10)ブロックチェーンと企業戦略[対面] (11)ブロックチェーンと企業戦略についてのディスカッション[対面] (12)バーチャル・ファクトリーを機能させる条件[対面] (13)バーチャル・ファクトリーを機能させる条件についてのディスカッション[対面] (14)インターネット時代の製品開発[対面] (15)インターネット時代の製品開発についてのディスカッション[対面] (16)後期ガイダンス[対面] (17)企業活動と経営情報[対面] (18)企業情報システム発展史[対面] (19)情報の戦略的活用[対面] (20)競争戦略と経営情報[対面] (21)ビジネスプロセスと経営情報[対面] (22)サプライチェーンマネジメント(SCM)[対面] (23)統合基幹業務システム(ERP)[対面] (24)情報システム投資の効果[対面] (25)情報システム投資と競争優位[対面] (26)事業と ICT の整合[対面] (27)Web サービスの活用[対面] (28)企業経営と人工知能(AI)[対面] (29)企業経営とIoT[対面] (30)授業全体のとりまとめ[対面]	

[アクティブラーニングの取り入れ状況]

ディスカッションを行う。

[課題に対するフィードバック方法]

授業中に適宜フィードバックをする。

[教科書・参考書等]

教科書：前期及び後期のガイダンスで適宜指示する。

参考書：適宜指示する。

[評価方法]

(1)試験・テストについて

実施しない。

(2)試験以外の評価方法

課題レポートの採点、ディスカッションへの取組み状況进行评估する

(3)成績の配分・評価基準等

課題レポートの採点(50%)、授業への取組み状況(50%)。

[準備学習]

教科書の予習および復習が必要である。

事前学習：教科書の予習、課題レポートの作成(180分)

事後学習：理解が出来なかった事項の復習(60分)

[科目の位置づけと他科目との関連]

学部および大学院の経営情報、経営情報システム、経営戦略などの科目と関連があるので、履修しておくことが望ましい。

[担当教員へのアクセス]

研究室：3号館1階 3116号室

メールアドレス：s_kudo@isenshu-u.ac.jp

[オフィスアワー]

時間帯：随時

場所：3号館1階 3116号室

[備考]

特になし。

経営統計学特論 (Advanced Business Statistics)

担当者	准教授 岩浅 巧
[単位・開講期] 4単位・通年	
[授業概要] 意思決定を行う際、統計的方法を使ったデータ分析に基づくアプローチは有力な方法の一つである。主要な統計的方法について理論的な面を理解し、簡単に手法については、実際に適用できるようにプログラムを作成できるようにしていく。	
[到達目標] 統計の考え方、手法を正確に理解し、データ分析に適用する場合の意義について理解する。	
<授業の方法>	
[授業形態]	
【対面形式】 指定書籍や指定論文に基づいて説明をした後に実習を行う。	
[授業計画(前期)] (1) データサンプリング(1)[対面] (2) データサンプリング(2)[対面] (3) データサンプリング(3)[対面] (4) 度数分布とグラフ(1)[対面] (5) 度数分布とグラフ(2)[対面] (6) 中心の位置の特性値(1)[対面] (7) 中心の位置の特性値(2)[対面] (8) 中心の位置の特性値(3)[対面] (9) 散らばりの特性値(1)[対面] (10) 散らばりの特性値(1)[対面] (11) 散らばりの特性値(2)[対面] (12) 散らばりの特性値(3)[対面] (13) 相関[対面] (14) 回帰(1)[対面] (15) 回帰(2)[対面]	[授業計画(後期)] (16) データサンプリング(1)[対面] (17) データサンプリング(2)[対面] (18) データサンプリング(3)[対面] (19) 度数分布とグラフ(1)[対面] (20) 度数分布とグラフ(2)[対面] (21) 中心の位置の特性値(1)[対面] (22) 中心の位置の特性値(2)[対面] (23) 中心の位置の特性値(3)[対面] (24) 散らばりの特性値(1)[対面] (25) 散らばりの特性値(1)[対面] (26) 散らばりの特性値(2)[対面] (27) 散らばりの特性値(3)[対面] (28) 相関[対面] (29) 回帰(1)[対面] (30) 回帰(2)[対面]
[アクティブラーニングの取り入れ状況] アクティブラーニングは実施しない。	
[課題に対するフィードバック方法] 課題提出後に解説を行う。	
[教科書・参考書等] 教科書:参考書籍や参考論文については、適宜講義中に紹介する。 参考書:	
[評価方法] (1)試験・テストについて 実施しない。 (2)試験以外の評価方法 講義内での発表と事前課題、討論への参加等。 (3)成績の配分・評価基準等 講義内での発表と事前課題(60%)、討論への参加状況(40%)等を総合的に評価する。	
[準備学習] 事前学習:予習として指定書籍や指定論文の該当箇所について事前読了を求め、かつレジュメにまとめて講	

義時に発表してもらうことがある。各回の予習には 90 分～120 分かかると想定される。

事後学習：復習として指定書籍や指定論文の該当箇所について事前読了を求め、かつレジュメにまとめて講義時に発表してもらうことがある。各回の予習には 90 分～120 分かかると想定される。

[科目の位置づけと他科目との関連]

統計学やプログラミングの基本的な考え方については、学部時代に習得できていることを前提とする。

[担当教員へのアクセス]

研究室：3号館2階 3214 号室

[オフィスアワー]

時間帯：随時。授業終了後でも可。

場所：研究室3号館2階 3214 号室

[備考]

講義内容に関する質問は、随時受け付ける。

情報経済学特論 (Information Economics)

担当者	教授 浅沼 大樹		
[単位・開講期] 4単位・通年			
[授業概要] 従来の経済学は、取引関係者は同じ情報を共有するという完全情報を仮定していた。情報経済学では、情報の獲得には費用がともなうと仮定し、不完全な情報の下での意思決定がもたらす種々の問題とその解決策を検討する。本授業においては、前期に経済学の柱となる基礎理論を学習し、後期に市場価格メカニズムの有効性などを学習し、さらに、最近の研究トピックである限定合理性、実験経済学などの問題について考察する。			
[到達目標] 経済学の考え方を習得する。			
<授業の方法>			
[授業形態]			
【対面形式】			
<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="vertical-align: top; width: 50%;"> [授業計画(前期)] (1) 情報経済学とは [対面] (2) 消費者の決定(1) [対面] (3) 消費者の決定(2) [対面] (4) 消費者の決定(3) [対面] (5) 需要関数(1) [対面] (6) 需要関数(2) [対面] (7) 需要関数(3) [対面] (8) 需要関数(4) [対面] (9) 生産の理論(1) [対面] (10) 生産の理論(2) [対面] (11) 生産の理論(3) [対面] (12) 競争市場均衡(1) [対面] (13) 競争市場均衡(2) [対面] (14) 競争市場均衡(3) [対面] (15) 競争市場均衡(4) [対面] </td><td style="vertical-align: top; width: 50%;"> [授業計画(後期)] (16) 情報経済学とは [対面] (17) 消費者の決定(1) [対面] (18) 消費者の決定(2) [対面] (19) 消費者の決定(3) [対面] (20) 需要関数(1) [対面] (21) 需要関数(2) [対面] (22) 需要関数(3) [対面] (23) 需要関数(4) [対面] (24) 生産の理論(1) [対面] (25) 生産の理論(2) [対面] (26) 生産の理論(3) [対面] (27) 競争市場均衡(1) [対面] (28) 競争市場均衡(2) [対面] (29) 競争市場均衡(3) [対面] (30) 競争市場均衡(4) [対面] </td></tr> </table>		[授業計画(前期)] (1) 情報経済学とは [対面] (2) 消費者の決定(1) [対面] (3) 消費者の決定(2) [対面] (4) 消費者の決定(3) [対面] (5) 需要関数(1) [対面] (6) 需要関数(2) [対面] (7) 需要関数(3) [対面] (8) 需要関数(4) [対面] (9) 生産の理論(1) [対面] (10) 生産の理論(2) [対面] (11) 生産の理論(3) [対面] (12) 競争市場均衡(1) [対面] (13) 競争市場均衡(2) [対面] (14) 競争市場均衡(3) [対面] (15) 競争市場均衡(4) [対面]	[授業計画(後期)] (16) 情報経済学とは [対面] (17) 消費者の決定(1) [対面] (18) 消費者の決定(2) [対面] (19) 消費者の決定(3) [対面] (20) 需要関数(1) [対面] (21) 需要関数(2) [対面] (22) 需要関数(3) [対面] (23) 需要関数(4) [対面] (24) 生産の理論(1) [対面] (25) 生産の理論(2) [対面] (26) 生産の理論(3) [対面] (27) 競争市場均衡(1) [対面] (28) 競争市場均衡(2) [対面] (29) 競争市場均衡(3) [対面] (30) 競争市場均衡(4) [対面]
[授業計画(前期)] (1) 情報経済学とは [対面] (2) 消費者の決定(1) [対面] (3) 消費者の決定(2) [対面] (4) 消費者の決定(3) [対面] (5) 需要関数(1) [対面] (6) 需要関数(2) [対面] (7) 需要関数(3) [対面] (8) 需要関数(4) [対面] (9) 生産の理論(1) [対面] (10) 生産の理論(2) [対面] (11) 生産の理論(3) [対面] (12) 競争市場均衡(1) [対面] (13) 競争市場均衡(2) [対面] (14) 競争市場均衡(3) [対面] (15) 競争市場均衡(4) [対面]	[授業計画(後期)] (16) 情報経済学とは [対面] (17) 消費者の決定(1) [対面] (18) 消費者の決定(2) [対面] (19) 消費者の決定(3) [対面] (20) 需要関数(1) [対面] (21) 需要関数(2) [対面] (22) 需要関数(3) [対面] (23) 需要関数(4) [対面] (24) 生産の理論(1) [対面] (25) 生産の理論(2) [対面] (26) 生産の理論(3) [対面] (27) 競争市場均衡(1) [対面] (28) 競争市場均衡(2) [対面] (29) 競争市場均衡(3) [対面] (30) 競争市場均衡(4) [対面]		
[アクティブラーニングの取り入れ状況]			
[課題に対するフィードバック方法] 振り返り用のレポートをもとに学生が理解しやすいようにテキストや実習を見直していく。			
[教科書・参考書等] 教科書: 授業時に指示をする。 参考書: 以下のテキストはよく用いられている。英語文献に慣れる意味でも取り組んでほしい。 ・Varian, H.R., Microeconomic Analysis, 3rd edition, Norton, 1992 (日本語訳: ハル.R.ヴァリアン「ミクロ経済分析」勁草書房) ・Mas-Colell, A., M.D. Whinston, and J.R. Green, Microeconomic Theory, Oxford University Press, 1995.			
[評価方法] (1) 試験・テストについて			

試験は行わない

(2)試験以外の評価方法

テキストの報告内容で評価する

(3)成績の配分・評価基準等

教科書・論文の輪読(60%),演習問題(30%),受講姿勢(10%)により評価する。

[準備学習]

事前学習:予習は必ず行うこと。また,数学を多く用いるため,学部授業「経営数学」レベルの数学知識を前提とする。忘れてしまっている人は復習をしておくこと。(120分)

事後学習:自身の報告内容と授業内での議論を踏まえてテキストの理解を確実なものとする。こと。(120分)

[科目の位置づけと他科目との関連]

統計学などの数理的な科目の他,経済問題を扱うため経営学とも関連が深い。

[担当教員へのアクセス]

研究室:授業時に伝える。

[オフィスアワー]

時間帯:相談や質問には適宜応じる。

場所:

[備考]

相談や質問には適宜応じる。積極的に受講してほしい。

情報システム構成論特論 (Advanced Information Systems Design)

担当者	
[単位・開講期] 4単位・通年 [授業概要] 令和6年度入学者に対しては、非開講。 [到達目標] <授業の方法> [授業形態] [授業計画(前期)] [アクティブラーニング取り入れ状況] [課題に対するフィードバック方法] [教科書・参考書等] [評価方法] [準備学習] [科目の位置づけと他科目との関連] [担当教員へのアクセス] [オフィスアワー]	
[授業計画(後期)]	

情報ネットワーク論特論(Advanced Internet Programming)

担当者	教授 佐々木 万亀夫
[単位・開講期] 4単位・通年	
[授業概要]	
情報ネットワークが関わる分野では次のような新しい技術が利用されるようになってきている。	
・ブロックチェーンによる分散型台帳管理システム	
・IoTとクラウドによるデータ収集と分析のシステム	
・人工知能のアルゴリズムを使用したデータ処理	
今後も情報処理分野では新しい技術が登場してくることが予想される。このような技術をすぐに吸収するために必要な基礎の部分について授業や実習を行う。	
[到達目標]	
・情報処理の基礎をしっかりと身につけることで最新の技術にも対応できるようになる	
・問題を分析しシステムの設計について提案することができるようになる。	
<授業の方法>	
[授業形態]	
【対面形式】	
文献講読が中心の「授業・演習」形式である。	
[授業計画(前期)]	
(1) The OSI Security Architecture [対面]	
(2) A Model for Internet Security [対面]	
(3) Internet Standards the Internet Society [対面]	
(4) Internet Web Resources [対面]	
(5) Symmetric Encryption Principles [対面]	
(6) Symmetric Block Encryption Algorithms [対面]	
(7) Cipher Block Modes of Operation [対面]	
(8) Location of Encryption Devices [対面]	
(9) Key Distribution [対面]	
(10) Approaches to Message Authentication [対面]	
(11) Secure Hash Functions [対面]	
(12) Public-Key Cryptography Principles [対面]	
(13) Public-Key Cryptography Algorithms [対面]	
(14) IP Security Overview [対面]	
(15) IP Security Architecture [対面]	
ディスカッションを適宜授業中に行う。	
[アクティブラーニングの取り入れ状況]	
ディスカッションを行う。	
[課題に対するフィードバック方法]	
[授業計画(後期)]	
(16) Authentication Header [対面]	
(17) Encapsulating Security Payload [対面]	
(18) Combining Security Associations [対面]	
(19) Web Security Requirements [対面]	
(20) Secure Sockets Layer(SSL) and Transport Layer Security(TLS) [対面]	
(21) Secure Electronic Transaction(SET) [対面]	
(22) Intruders [対面]	
(23) Intrusion Detection [対面]	
(24) Password Management [対面]	
(25) Viruses and Related Threats [対面]	
(26) Virus Countermeasures [対面]	
(27) Distributed Denial of Service Attacks [対面]	
(28) Firewall Design Principles [対面]	
(29) Trusted Systems [対面]	
(30) Common Criteria for Information Technology Security Evaluation [対面]	

授業中に適宜フィードバックをする。

[教科書・参考書等]

教科書:William Stallings, “NETWORK SECURITY ESSENTIALS”,
Pearson Education, Inc.(2007)

参考書:適宜指示する。

[評価方法]

(1)試験・テストについて

実施しない。

(2)試験以外の評価方法

教科書の内容理解等の平常点。

(3)成績の配分・評価基準等

教科書の内容理解等の平常点(100%)で評価する。試験を行わない予定であるが、理解度が低い場合はレポートの提出をしてもらう。

[準備学習]

教科書の予習および復習が必要である。特に、テキストが洋書であるため、予習には多くの時間を割いてもらいたい。

事前学習:教科書の予習(180分)

事後学習:教科書の予習および復習(60分)

[科目の位置づけと他科目との関連]

英語の読解力養成のため、併せて外国語専門文献購読を履修することが望ましい。

[担当教員へのアクセス]

研究室:3号館1階3120号室

メールアドレス:msasaki@isenshu-u.ac.jp

[オフィスアワー]

時間帯:随時

場所:3120研究室

[備考]

特になし。

情報資源管理論特論 (Security of Information Resources)

担当者	教授 佐々木 万亀夫
[単位・開講期] 4単位・通年	
[授業概要] 現代社会において、『情報』は極めて基本的な構成要素の一つとなっている。そのため、『情報』を管理することが非常に重要になってきている。ICT化が進展している日本において省庁や大手企業の極秘情報が流出するという事件が相次いでいることはゆゆしき事態である。情報の管理に関して我が国は世界的にみて遅れており、今後さらに大きい問題が起こりうる可能性が高いと考えられる。従って、情報管理を上手に行うことが必要かつ重要となってくる。そこで本授業では、ネットワーク・プロトコルである IPv6 を学習しながら、情報管理の基本概念、理論および方法について学習する。	
[到達目標] 情報通信技術に関する文献・資料は、元をたどれば洋書である場合がほとんどである。そこで、情報通信技術に関する専門用語の理解および専門書の読解を本授業の到達目標とする。	
<授業の方法>	
[授業形態]	
【対面形式】	
文献講読が中心の「授業・演習」形式である。	
[授業計画(前期)] (1) Computer Use [対面] (2) Data Security Policies [対面] (3) Standards [対面] (4) Network Design [対面] (5) DMZ [対面] (6) Defense in Depth 1: Routers [対面] (7) Defense in Depth 2: Encryption [対面] (8) Defense in Depth 3: Servers [対面] (9) Defense in Depth 4: Training & Awareness [対面] (10) Authentication [対面] (11) Authorization [対面] (12) Security and the Mobile Employee [対面] (13) Data on Laptops [対面] (14) Business Continuity Planning [対面] (15) Post-Disaster: Reassess the Plan [対面]	
[授業計画(前期)] (1) Computer Use [対面] (2) Data Security Policies [対面] (3) Standards [対面] (4) Network Design [対面] (5) DMZ [対面] (6) Defense in Depth 1: Routers [対面] (7) Defense in Depth 2: Encryption [対面] (8) Defense in Depth 3: Servers [対面] (9) Defense in Depth 4: Training & Awareness [対面] (10) Authentication [対面] (11) Authorization [対面] (12) Security and the Mobile Employee [対面] (13) Data on Laptops [対面] (14) Business Continuity Planning [対面] (15) Post-Disaster: Reassess the Plan [対面]	
ディスカッションを適宜授業中に行う。	
[アクティブラーニングの取り入れ状況] ディスカッションを行う。	
[課題に対するフィードバック方法] 授業中に適宜フィードバックをする。	
[教科書・参考書等] 教科書: Philip Alexander, "Information Security",	

Greenwood Publishing Group, Inc.(2008)

参考書:適宜指示する。

[評価方法]

(1)試験・テストについて

実施しない。

(2)試験以外の評価方法

教科書の内容理解等の平常点。

(3)成績の配分・評価基準等

教科書の内容理解等の平常点(100%)で評価する。試験を行わない予定であるが、理解度が低い場合はレポートの提出をしてもらう。

[準備学習]

教科書の予習および復習が必要である。特に、テキストが洋書であるため、予習には多くの時間を割いてもらいたい。

事前学習:教科書の予習(180分)

事後学習:教科書の予習および復習(60分)

[科目の位置づけと他科目との関連]

英語の読解力養成のため、併せて外国語専門文献購読を履修することが望ましい。

[担当教員へのアクセス]

研究室:3号館1階3120号室

メールアドレス:msasaki@isenshu-u.ac.jp

[オフィスアワー]

時間帯:随時

場所:3120研究室

[備考]

特になし。

シミュレーション論特論 (Advanced Simulation)

担当者	教授 日野 博明
[単位・開講期]	
4単位・通年	
[授業概要]	
シミュレーションは、自然現象・社会現象を真似することである。モデルをうまく作るにより、実際に体験することのできない事象についても体験でき理解することができる。そのためには、今起きている現象を注意深く観察し、その本質を簡潔に表現できる手法を見つけ出す必要がある。	
この授業では、シミュレーションの基本的な手法を実際のモデルを用いて説明し、理解を深めていく。さらに高等学校まででは学ばない高等数学についても解説し、シミュレーションのモデル化の選択の幅を広げていく。また、経営工学的な視点からオペレーションズ・リサーチの手法を取り入れ、経営分析、経営の最適化、需要予測などに役立つようなアルゴリズム、プログラムとして作り上げて生きたい。さらに、データ保護の面から暗号についても取り上げ、いくつかの具体的なプログラムとして作り上げていく。	
[到達目標]	
シミュレーションにおける具体的なモデル化について理解し、実装を行う。	
<授業の方法>	
[授業形態]	
【対面形式】	
資料に基づいて説明をした後に実習を行う。	
[授業計画(前期)]	
(1) 大学教養程度の数学の復習1[対面]	
(2) 大学教養程度の数学の復習2[対面]	
(3) 大学教養程度の数学の復習3[対面]	
(4) 大学教養程度の数学の復習4[対面]	
(5) 微積分1[対面]	
(6) 微積分2[対面]	
(7) 整数論1[対面]	
(8) 整数論2[対面]	
(9) シミュレーションモデル研究1[対面]	
(10) シミュレーションモデル研究2[対面]	
(11) シミュレーションモデル研究3[対面]	
(12) シミュレーションモデル研究4[対面]	
(13) 暗号のアルゴリズム1[対面]	
(14) 暗号のアルゴリズム2[対面]	
(15) 暗号のアルゴリズム3[対面]	
[授業計画(後期)]	
(16) 大学教養程度の数学の復習1[対面]	
(17) 大学教養程度の数学の復習2[対面]	
(18) 大学教養程度の数学の復習3[対面]	
(19) 大学教養程度の数学の復習4[対面]	
(20) 微積分1[対面]	
(21) 微積分2[対面]	
(22) 整数論1[対面]	
(23) 整数論2[対面]	
(24) シミュレーションモデル研究1[対面]	
(25) シミュレーションモデル研究2[対面]	
(26) シミュレーションモデル研究3[対面]	
(27) シミュレーションモデル研究4[対面]	
(28) 暗号のアルゴリズム1[対面]	
(29) 暗号のアルゴリズム2[対面]	
(30) 暗号のアルゴリズム3[対面]	
[アクティブラーニングの取り入れ状況]	
前期(1)～後期(15)まですべて。	
[課題に対するフィードバック方法]	
課題提出後解説を行う。	
[教科書・参考書等]	
教科書：関根智明・高橋磐郎・若山邦紘著「シミュレーション」 日科技連	
参考書：石村園子著「やさしく学べる微分積分」 共立出版	
結城浩著「暗号技術入門」ソフトバンクパブリッシング	
森雅夫・森戸進 他著「オペレーションズ・リサーチⅠ、Ⅱ」 朝倉書店	

[評価方法]

(1)試験・テストについて
実施しない。

(2)試験以外の評価方法
レポートとプログラミングによる評価。

(3)成績の配分・評価基準等
課題のレポート(50%)と課題モデルプログラミング(50%)による。

[準備学習]

事前学習:線形代数学、統計学については、事前に大学時代の教科書を元に復習しておくこと。

(120 分)

事後学習:授業時間内だけでは、課題の完成は難しいので、時間を見つけて自主的に作業を進めること。

(180 分)

[科目の位置づけと他科目との関連]

基本的な考え方・プログラミングについては、学部時代に習得できていることを前提とする。

[担当教員へのアクセス]

研究室:3号館2階 3224 号室

[オフィスアワー]

時間帯:随時。授業終了後でも可。

場所:研究室3号館2階 3224 号室

[備考]

授業内容に関する質問は、随時受け付ける。

経営情報システム論特論(Management Information System)

担当者	教授 浅沼 大樹
[単位・開講期] 4単位・通年	
[授業概要] 経営情報システムの沿革、現状および将来の方向について学習する。企業経営の視点から、経営情報システムの戦略的価値を正しく理解できる能力を養成することを目的とする。	
[到達目標] ・企業経営における情報技術(IT)の役割とその重要性を理解できる。 ・ITの進歩に伴う経営情報システムの発展経緯および歴史的意義を理解できる。 ・最新の経営情報システムの現状と課題を把握できる。	
<授業の方法>	
[授業形態]	
【対面形式】 授業形式の授業を行う。	
[授業計画(前期)] (1) ガイダンス、経営情報システムの概要 [対面] (2) 経営情報システム発展史概観(1) [対面] (3) 経営情報システム発展史概観(2) [対面] (4) 経営情報システム発展史概観(3) [対面] (5) 経営情報システム発展史概観(4) [対面] (6) 経営情報システム(MIS)入門 [対面] (7) 経営情報システム(MIS)事例 [対面] (8) 経営情報システム(MIS)応用 [対面] (9) 意思決定支援システム(DSS)入門 [対面] (10) 意思決定支援システム(DSS)事例 [対面] (11) 意思決定支援システム(DSS)応用 [対面] (12) 戦略的情報システム(SIS)入門 [対面] (13) 戦略的情報システム(SIS)事例 [対面] (14) 戦略的情報システム(SIS)応用 [対面] (15) 前期まとめ [対面]	[授業計画(後期)] (16) ガイダンス、経営情報システムの概要 [対面] (17) 経営情報システム発展史概観(1) [対面] (18) 経営情報システム発展史概観(2) [対面] (19) 経営情報システム発展史概観(3) [対面] (20) 経営情報システム発展史概観(4) [対面] (21) 経営情報システム(MIS)入門 [対面] (22) 経営情報システム(MIS)事例 [対面] (23) 経営情報システム(MIS)応用 [対面] (24) 意思決定支援システム(DSS)入門 [対面] (25) 意思決定支援システム(DSS)事例 [対面] (26) 意思決定支援システム(DSS)応用 [対面] (27) 戦略的情報システム(SIS)入門 [対面] (28) 戦略的情報システム(SIS)事例 [対面] (29) 戦略的情報システム(SIS)応用 [対面] (30) 前期まとめ [対面]
[アクティブラーニングの取り入れ状況] 後期 13 回目および 14 回目の授業において実施するレポートの報告・討論が、アクティブラーニング(2 回)である。	
[課題に対するフィードバック方法] 後期 13 回目および 14 回目の授業で、レポートの返却・解説を行う。	
[教科書・参考書等] 教科書：(1) 宮川公男・上田泰(編著)『経営情報システム』[第 4 版]、2014 年 3 月、中央経済社。 (2) 島田達巳・高原康彦(共著)『経営情報システム』[改訂第 3 版]、2007 年 2 月、日科技連。 (3) 経営情報学会情報システム発展史特設研究部会(編)『明日の IT 経営のための情報システム発展史[総合編]』、2010 年 9 月、専修大学出版局。	

[評価方法]

(1)試験・テストについて

試験は行わない

(2)試験以外の評価方法

テキストの報告内容で評価する

(3)成績の配分・評価基準等

レポート(50点)、授業への貢献度(50点)にて総合評価する。

レポート:後期授業後半に課すレポートを評価する。

授業への貢献度:毎回出席者に発言を求める。また、授業のリアクション・ペーパーの提出で理解度を把握する。教員の一方的な授業にならないよう積極的な態度で授業に貢献してほしい。

[準備学習]

事前学習:予習は授業出席のための前提である。予習内容等については各授業終了直前に指示する。

(120分)

事後学習:復習は課題レポートを作成することで代える。課題(テーマ)等はその都度、指示する。

専門用語が多いため、復習が絶対的に必要である。欠席や遅刻をするとレポートの作成に支障をきたす恐れがあるため注意が必要である。(120分)

[科目の位置づけと他科目との関連]

実習ではビジネス上の問題を扱うため、経営学分野の授業を履修して業務知識やビジネスセンスを得ておくことが望ましい。

[担当教員へのアクセス]

研究室:授業時に伝える。

[オフィスアワー]

時間帯:相談や質問には適宜応じる。

場所:

[備考]

相談や質問には適宜応じる。積極的に受講してほしい。

経営情報学演習 (Seminar of Business Information Theory)

担当者	専任教員																																
[単位・開講期] 8単位(2年間) [授業概要] 「経営情報学演習」では、「経営情報学」という専攻分野の枠内で、それぞれの演習担当教員が担当する授業科目と結びつく研究分野を中心としながらも限定されことなく、各担当教員の実際の研究領域に関連するテーマについて、修士論文作成のための研究指導を行う。学生には、志望する演習担当教員との面談機会を提供し、各教員の担当する授業科目を参考にしながら、自分の関心に対応する指導が受けられる教員を、指導教員として選べるような機会を提供する。 各々のテーマを設定した学生は、演習担当教員の指導のもと、文献の講読、資料の収集、調査分析等を行い、適当な時期に発表・討論しながら、さらにその研究を深めていき、最終的には修士論文の作成へと繋げる。 [到達目標] 各演習担当教員の研究指導の下で研究を深め、各自が設定したテーマについて修士論文をまとめる。 <授業の方法> [授業形態] 【対面形式】を基本とする。 指導教員の指示に基づく。 文献講読、資料の分析、調査を行う。「授業・演習」形式である。 [授業計画] 演習の初回に担当教員より説明があるが、概ね以下のような計画である。2年次には1年次の研究を踏まえ、修士論文執筆の指導を行なう。 <table border="0"> <tr> <td>(前期)</td><td>(後期)</td></tr> <tr> <td>(1) 研究テーマの決定</td><td>(16) 研究テーマの決定</td></tr> <tr> <td>(2) 研究計画作成</td><td>(17) 研究計画作成</td></tr> <tr> <td>(3) 研究テーマに関する文献の講読1</td><td>(18) 研究テーマに関する文献の講読1</td></tr> <tr> <td>(4) 研究テーマに関する文献の講読2</td><td>(19) 研究テーマに関する文献の講読2</td></tr> <tr> <td>(5) 研究テーマに関する文献の講読3</td><td>(20) 研究テーマに関する文献の講読3</td></tr> <tr> <td>(6) 研究テーマに関する文献の講読4</td><td>(21) 研究テーマに関する文献の講読4</td></tr> <tr> <td>(7) 研究テーマに関する文献の講読5</td><td>(22) 研究テーマに関する文献の講読5</td></tr> <tr> <td>(8) 研究テーマに関する文献の講読6</td><td>(23) 研究テーマに関する文献の講読6</td></tr> <tr> <td>(9) 研究テーマに関する文献の講読7</td><td>(24) 研究テーマに関する文献の講読7</td></tr> <tr> <td>(10) 研究テーマに関する文献の講読8</td><td>(25) 研究テーマに関する文献の講読8</td></tr> <tr> <td>(11) 研究テーマに関する文献の講読9</td><td>(26) 研究テーマに関する文献の講読9</td></tr> <tr> <td>(12) 研究テーマに関する文献の講読10</td><td>(27) 研究テーマに関する文献の講読10</td></tr> <tr> <td>(13) 研究テーマに関する資料の精査1</td><td>(28) 研究テーマに関する資料の精査1</td></tr> <tr> <td>(14) 研究テーマに関する資料の精査2</td><td>(29) 研究テーマに関する資料の精査2</td></tr> <tr> <td>(15) 研究テーマに関する資料の精査3</td><td>(30) 研究テーマに関する資料の精査3</td></tr> </table> ディスカッションを適宜授業中に行う。 [アクティブラーニングの取り入れ状況] ディスカッション、資料の分析、調査は、アクティブラーニングそのものである。 [課題に対するフィードバック方法] 授業中に適宜フィードバックをする。 [教科書・参考書等]		(前期)	(後期)	(1) 研究テーマの決定	(16) 研究テーマの決定	(2) 研究計画作成	(17) 研究計画作成	(3) 研究テーマに関する文献の講読1	(18) 研究テーマに関する文献の講読1	(4) 研究テーマに関する文献の講読2	(19) 研究テーマに関する文献の講読2	(5) 研究テーマに関する文献の講読3	(20) 研究テーマに関する文献の講読3	(6) 研究テーマに関する文献の講読4	(21) 研究テーマに関する文献の講読4	(7) 研究テーマに関する文献の講読5	(22) 研究テーマに関する文献の講読5	(8) 研究テーマに関する文献の講読6	(23) 研究テーマに関する文献の講読6	(9) 研究テーマに関する文献の講読7	(24) 研究テーマに関する文献の講読7	(10) 研究テーマに関する文献の講読8	(25) 研究テーマに関する文献の講読8	(11) 研究テーマに関する文献の講読9	(26) 研究テーマに関する文献の講読9	(12) 研究テーマに関する文献の講読10	(27) 研究テーマに関する文献の講読10	(13) 研究テーマに関する資料の精査1	(28) 研究テーマに関する資料の精査1	(14) 研究テーマに関する資料の精査2	(29) 研究テーマに関する資料の精査2	(15) 研究テーマに関する資料の精査3	(30) 研究テーマに関する資料の精査3
(前期)	(後期)																																
(1) 研究テーマの決定	(16) 研究テーマの決定																																
(2) 研究計画作成	(17) 研究計画作成																																
(3) 研究テーマに関する文献の講読1	(18) 研究テーマに関する文献の講読1																																
(4) 研究テーマに関する文献の講読2	(19) 研究テーマに関する文献の講読2																																
(5) 研究テーマに関する文献の講読3	(20) 研究テーマに関する文献の講読3																																
(6) 研究テーマに関する文献の講読4	(21) 研究テーマに関する文献の講読4																																
(7) 研究テーマに関する文献の講読5	(22) 研究テーマに関する文献の講読5																																
(8) 研究テーマに関する文献の講読6	(23) 研究テーマに関する文献の講読6																																
(9) 研究テーマに関する文献の講読7	(24) 研究テーマに関する文献の講読7																																
(10) 研究テーマに関する文献の講読8	(25) 研究テーマに関する文献の講読8																																
(11) 研究テーマに関する文献の講読9	(26) 研究テーマに関する文献の講読9																																
(12) 研究テーマに関する文献の講読10	(27) 研究テーマに関する文献の講読10																																
(13) 研究テーマに関する資料の精査1	(28) 研究テーマに関する資料の精査1																																
(14) 研究テーマに関する資料の精査2	(29) 研究テーマに関する資料の精査2																																
(15) 研究テーマに関する資料の精査3	(30) 研究テーマに関する資料の精査3																																

担当教員より別途指示する。

[評価方法]

(1)試験・テストについて

担当教員より別途指示する。

(2)試験以外の評価方法

担当教員より別途指示する。

(3)成績の配分・評価基準等

討論の状況(20%)、論文内容(60%)、論文発表(20%)により評価する。

[準備学習]

担当教員より別途指示するが、合計で 240 分必要。

事前学習:事後学習と合わせて 240 分。

事後学習:事前学習と合わせて 240 分。

[授業以外の学習方法]

修士論文を執筆するにあたり、授業以外の時間を十分に活用して、必要な資料の収集、調査分析等を継続的に行なう必要がある。また、大学院生相互に研究に関する議論を活発に行なうこと。

[科目の位置づけと他科目との関連]

概ね「経営情報学」の分野に該当する科目を履修することが必要である。また、各学生が設定したテーマの修士論文作成のための研究指導を行うが、そのために履修が必要な科目については、指導教員より別途指示する。

[担当教員へのアクセス]

研究室:担当教員より別途指示する。

メールアドレス:担当教員より別途指示する。

[オフィスアワー]

時間帯:担当教員より別途指示する。

場所:担当教員より別途指示する。

[備考]

研究進行状況等について、各演習担当教員とのコミュニケーションを欠かさないこと。

外国語専門文献講読 (Advanced Foreign Treatises)

担当者	教授 丸岡 泰
[単位・開講期] 隔週、2単位・通年	
[授業概要] 東日本大震災後の本学でも見られたように、災害後の被災地に多くのボランティアが集まる現象は世界的に観察される。それは被災者の便益になる一方で、場合によっては不利益ともなる。ボランティアという自発的・利他的・無償の労働力に最低限の秩序をもたらす、不利益が起こりにくくするための仕組みについて理論的な検討は必要である。この仕組みによる秩序化を管理と呼ぶことも可能だが、その用語自体、ボランティアからは嫌悪されるため使用が困難である。用語の是非はさておき、この授業では、必要な仕組みについて外国での災害事例から形成された理論を検討することで災害ボランティアについての諸問題を理解する。また、ボランティアに関連する NGO・NPO についても議論を行う。	
[到達目標] 災害ボランティアの特徴と「巻き込み／排除パラドックス」を理解する。	
<授業の方法> [授業形態] 【対面形式】 を基本とするが、参加者との相談の上 【非対面形式】 の同時双方向型を取る場合もある。 学生の報告と教員との議論を中心に授業を進める。	
[授業計画] (1) ガイダンス[対面] (2) ～(29) テキスト購読[対面] (30) 要点のまとめ[対面]	
[アクティブラーニングの取り入れ状況] 参加者の予習・報告と議論・意見交換。	
[課題に対するフィードバック方法] 参加者がテキストの割り当て部分をあらかじめ読み、その翻訳を用紙にまとめた発表骨子とともに行った口頭報告に対し、教員が論点を提示し、意見交換を行う。	
[教科書・参考書等] 教科書:Margaret Harris*, Duncan Shaw, Judy Scully, Chris M. Smith, Graham Hieke [2017] “The involvement/exclusion paradox of spontaneous volunteering: new lessons from winter flood episodes in England” Nonprofit and Voluntary Sector Quarterly, Volume46, 2, 1 Apr 2017 (必要な範囲のコピーを配布) 参考書:桜井政成編著[2013]『東日本大震災と NPO・ボランティア』ミネルヴァ書房	
[評価方法] (1)試験・テストについて 実施しない。 (2)試験以外の評価方法 予習と報告の質を評価する。 (3)成績の配分・評価基準等 報告の質(70%)と授業の理解状況(30%)。	
[準備学習] 事前学習:必ず予定範囲まで自分なりの翻訳を行ってくること。(120分)	

事後学習: 英文と翻訳を読み比べ、授業での論点と英文の意味を復習する。(120 分)

[科目の位置づけと他科目との関連]

本科目は非営利組織経営論の延長に位置付けられる。

[担当教員へのアクセス]

研究室: 3号館2階 3215 号館

[オフィスアワー]

時間帯: メール等でのアポに応じ実施。

maruoka(a)isenshu-u.ac.jp <(a)はアットマークに>

場所: 研究室

博士後期課程

経営学専攻

経営学特殊研究 (Advanced General Theory of Management)

担当者	教授 工藤 周平
[単位・開講期] 4単位・通年	
[授業概要] 企業を存続させるためには経営環境にうまく対応することが最も重要になる。現在は、政治的、経済的、社会的、技術的な要因によって経営環境が絶えず変化する。今日では予測困難な経営環境の変化もしばしば起こっており、企業は多くの経営問題に直面している。 本講義では、世界的に評価の高い学術雑誌である「ハーバード・ビジネス・レビュー」の重要論文を題材に、経営学の理論や分析枠組みを学習する。授業で取り上げる論文の主張に基づいて、理論や分析枠組みの現代的意義や現代の企業経営に関する問題について議論を行う。	
[到達目標] 学生が、経営学に関する重要論文の主張を理解する。経営学に関する重要論文の主張に基づき、現代の企業経営の問題について主体的に考え、実践的指針を示すことができる。	
<授業の方法>	
[授業形態]	
【対面形式】	
板書とパワーポイントを活用しながら、講義形式ですすめる。	
[授業計画(前期)] (1) 前期授業ガイダンス[対面] (2) イノベーションのジレンマへの挑戦[対面] (3) (2)の現代的意義の考察と議論[対面] (4) ブルー・オーシャン戦略[対面] (5) (4)の現代的意義の考察と議論[対面] (6) 自己探求の時代[対面] (7) (6)の現代的意義の考察と議論[対面] (8) マネジャーの仕事[対面] (9) (8)の現代的意義の考察と議論[対面] (10) バランススコアカードの導入インパクト[対面] (11) (10)の現代的意義の考察と議論[対面] (12) イノベーションの罅[対面] (13) (12)の現代的意義の考察と議論[対面] (14) 企業変革の落とし穴[対面] (15) (14)の現代的意義の考察と議論[非対面：同時双方向型]	[授業計画(前期)] (16) 前期授業ガイダンス[対面] (17) イノベーションのジレンマへの挑戦[対面] (18) (2)の現代的意義の考察と議論[対面] (19) ブルー・オーシャン戦略[対面] (20) (4)の現代的意義の考察と議論[対面] (21) 自己探求の時代[対面] (22) (6)の現代的意義の考察と議論[対面] (23) マネジャーの仕事[対面] (24) (8)の現代的意義の考察と議論[対面] (25) バランススコアカードの導入インパクト[対面] (26) (10)の現代的意義の考察と議論[対面] (27) イノベーションの罅[対面] (28) (12)の現代的意義の考察と議論[対面] (29) 企業変革の落とし穴[対面] (30) (14)の現代的意義の考察と議論[非対面：同時双方向型]
[アクティブラーニングの取り入れ状況] 毎回の講義の内容について学生にプレゼンテーションを課す。講義のテーマについて、ディスカッションを行う。	
[課題に対するフィードバック方法] 提出課題にコメントを記入し返却する。	
[教科書・参考書等] 教科書：ハーバード・ビジネス・レビュー編集部、『ハーバード・ビジネス・レビューBEST10 論文』、ダイヤモンド	

社、2018 年

ハーバード・ビジネス・レビュー編集部、『IoT の衝撃』、ダイヤモンド社、2016 年

参考書：必要に応じて講義中に紹介する

[評価方法]

(1) 試験・テストについて

試験・テストは実施しない

(2) 試験以外の評価方法

学生の報告の内容、レポートなどの提出物、議論やグループワーク等を評価する

(3) 成績の配分・評価基準等

報告内容の評価：50%、提出物の評価：30%、議論の評価：20%

報告内容：各授業テーマの理解度、プレゼン資料などの発表方法を見る。

提出物の評価：レポートや課題を課し、それらが指示通りの内容か、深く考えられているか、思考を発展させてまとめられているか、を見る。

議論の評価：論理性、妥当性、意欲を見る。

[準備学習]

事前学習：次回の授業内容に該当する部分について調査し、疑問点などをまとめる。(90分)

事後学習：前回のノートや配布したプリント等を参考にして復習する。授業内容に関連したニュースに対して、学習した知識を用いて分析する。(150分)

[科目の位置づけと他科目との関連]

経営学、経営戦略、経営組織、経営情報システムに関する基本的な理解が必要となる。

[担当教員へのアクセス]

研究室：3号館1階 3116 室

メールアドレス：s3467012@edu.isenshu-u.ac.jp

[オフィスアワー]

時間帯：月曜5限(16時50分～18時20分)

場所：研究室(3号館1階3116室)

※オフィスアワーなどで研究室を訪問する際は、前もって連絡すること

企業論特論 (Advanced Business Enterprises)

担当者	
[単位・開講期] 4単位・通年 [授業概要] 令和4年度入学者に対しては、非開講。 [到達目標] [教科書・参考書等] [評価方法] [授業計画(前期)]	[授業計画(後期)]
[アクティブラーニングの取り入れ状況] [授業形態] [課題に対するフィードバック方法] [準備学習] [科目の位置づけと他科目との関連] [担当教員へのアクセス] [オフィスアワー]	

経営管理論特殊研究 (Advanced Research in the Business Management)

担当者	教授 杉田 博		
[単位・開講期] 4単位・通年 [授業概要] 経営管理とは、組織の維持・存続を目的として、社会に必要な財とサービスを継続的に提供するという事業に対する管理者の活動である。C.I.バーナードによれば、それらはコミュニケーション、意思決定、モチベーション、リーダーシップからなり、それぞれの方法は、人間・組織・社会（環境）をいかに把握するかという管理者の価値観に依存している。このことは現代企業のカバナンスやコンプライアンスといった問題に他ならない。本講義では、ミクロおよびマクロの経営管理を取り上げることとする。 [到達目標] 現代企業のカバナンスや社会的責任を踏まえ、経営者の役割は何かを経済合理的かつ価値倫理的に考えることができる。 <授業の方法> [授業形態] [対面形式] 教科書を輪読し、その後、ディスカッションを行う。 <table border="0"> <tr> <td data-bbox="167 985 790 1534"> [授業計画(前期)] (1) 前期授業ガイダンス [対面] (2) 経営戦略 [対面] (3) 経営戦略 [対面] (4) 経営戦略 [対面] (5) イノベーション [対面] (6) イノベーション [対面] (7) イノベーション [対面] (8) 組織行動と人事 [対面] (9) 組織行動と人事 [対面] (10) 組織行動と人事 [対面] (11) カバナンス [対面] (12) カバナンス [対面] (13) カバナンス [対面] (14) コンプライアンス [対面] (15) コンプライアンス [対面] </td><td data-bbox="790 985 1417 1534"> [授業計画(前期)] (16) 前期授業ガイダンス [対面] (17) 経営戦略 [対面] (18) 経営戦略 [対面] (19) 経営戦略 [対面] (20) イノベーション [対面] (21) イノベーション [対面] (22) イノベーション [対面] (23) 組織行動と人事 [対面] (24) 組織行動と人事 [対面] (25) 組織行動と人事 [対面] (26) カバナンス [対面] (27) カバナンス [対面] (28) カバナンス [対面] (29) コンプライアンス [対面] (30) コンプライアンス [対面] </td></tr> </table> [アクティブラーニングの取り入れ状況] 受講者のプレゼンテーションの後に全員でディスカッションを行う。 [課題に対するフィードバック方法] 提出課題にコメントを記入し返却する。 [教科書・参考書等] 教科書：入山章栄著『世界標準の経営理論』ダイヤモンド社、2019年、2900円。 参考書：必要に応じて講義中に紹介する。 [評価方法] (1) 試験・テストについて 試験・テストは実施しない		[授業計画(前期)] (1) 前期授業ガイダンス [対面] (2) 経営戦略 [対面] (3) 経営戦略 [対面] (4) 経営戦略 [対面] (5) イノベーション [対面] (6) イノベーション [対面] (7) イノベーション [対面] (8) 組織行動と人事 [対面] (9) 組織行動と人事 [対面] (10) 組織行動と人事 [対面] (11) カバナンス [対面] (12) カバナンス [対面] (13) カバナンス [対面] (14) コンプライアンス [対面] (15) コンプライアンス [対面]	[授業計画(前期)] (16) 前期授業ガイダンス [対面] (17) 経営戦略 [対面] (18) 経営戦略 [対面] (19) 経営戦略 [対面] (20) イノベーション [対面] (21) イノベーション [対面] (22) イノベーション [対面] (23) 組織行動と人事 [対面] (24) 組織行動と人事 [対面] (25) 組織行動と人事 [対面] (26) カバナンス [対面] (27) カバナンス [対面] (28) カバナンス [対面] (29) コンプライアンス [対面] (30) コンプライアンス [対面]
[授業計画(前期)] (1) 前期授業ガイダンス [対面] (2) 経営戦略 [対面] (3) 経営戦略 [対面] (4) 経営戦略 [対面] (5) イノベーション [対面] (6) イノベーション [対面] (7) イノベーション [対面] (8) 組織行動と人事 [対面] (9) 組織行動と人事 [対面] (10) 組織行動と人事 [対面] (11) カバナンス [対面] (12) カバナンス [対面] (13) カバナンス [対面] (14) コンプライアンス [対面] (15) コンプライアンス [対面]	[授業計画(前期)] (16) 前期授業ガイダンス [対面] (17) 経営戦略 [対面] (18) 経営戦略 [対面] (19) 経営戦略 [対面] (20) イノベーション [対面] (21) イノベーション [対面] (22) イノベーション [対面] (23) 組織行動と人事 [対面] (24) 組織行動と人事 [対面] (25) 組織行動と人事 [対面] (26) カバナンス [対面] (27) カバナンス [対面] (28) カバナンス [対面] (29) コンプライアンス [対面] (30) コンプライアンス [対面]		

(2)試験以外の評価方法

学生の報告の内容、レポートなどの提出物、議論やグループワーク等の評価する

(3)成績の配分・評価基準等

報告内容の評価:50%、議論の評価:50%

報告内容:各授業テーマの理解度、プレゼン資料などの発表方法の評価する。

議論の評価:論理性、妥当性、意欲を評価する。

[準備学習]

事前学習:次回の授業内容について調査し、疑問点などをまとめる。(90分)

事後学習:教科書の熟読、関連文献を読む。(150分)

[科目の位置づけと他科目との関連]

経営学、経営戦略、経営組織に関する基本的な理解が必要となる。

[担当教員へのアクセス]

メールアドレス s3454236@edu.isenshu-u.ac.jp

[オフィスアワー]

時間帯:木曜日 2 時限・昼休み・3 時限

場所:3 号館 2 階 3219 号室

[備考]

授業内容に関する質問は 3219 教室で随時受け付ける。

経営組織論特殊研究 (Advanced Business Organization)

担当者	教授 杉田 博
[単位・開講期] 4単位・通年 [授業概要] 経営組織を「質的」に研究する。アンケートや統計調査に基づく研究を「定量的」と呼ぶのに対して、現場観察やインタビューに基づく研究を「定性的」と呼ぶ。1970年代以降、社会科学の分野で登場した定性的研究、つまり質的研究は、ギアツ(Geertz,C.)の「分厚い記述」という言葉に示されるように、人々の語りや現場での出来事(行動の意味など)を丹念に読み解いていく研究スタイルと言える。本研究では組織におけるさまざまな「意味」を、エスノグラフィーやナラティブアプローチなどの研究から捉えたい。 [到達目標] 経営組織の機能主義的研究と解釈主義的研究の双方の研究方法を理解することができる。 <授業の方法> [授業形態] 【対面形式】 教科書を輪読し、その後、ディスカッションを行う。 [授業計画(前期)] (1) 組織の合理性と非合理性 [対面] (2) 組織の合理性と非合理性 [対面] (3) 組織の合理性と非合理性 [対面] (4) 組織の構造 [対面] (5) 組織の構造 [対面] (6) 組織の構造 [対面] (7) 組織化のプロセス [対面] (8) 組織化のプロセス [対面] (9) 組織化のプロセス [対面] (10) 組織と環境(組織認識論) [対面] (11) 組織と環境(組織認識論) [対面] (12) 組織と環境(組織認識論) [対面] (13) 組織行動(マイクロ組織論) [対面] (14) 組織行動(マイクロ組織論) [対面] (15) 組織行動(マイクロ組織論) [対面] [授業計画(後期)] (16) 組織の合理性と非合理性 [対面] (17) 組織の合理性と非合理性 [対面] (18) 組織の合理性と非合理性 [対面] (19) 組織の構造 [対面] (20) 組織の構造 [対面] (21) 組織の構造 [対面] (22) 組織化のプロセス [対面] (23) 組織化のプロセス [対面] (24) 組織化のプロセス [対面] (25) 組織と環境(組織認識論) [対面] (26) 組織と環境(組織認識論) [対面] (27) 組織と環境(組織認識論) [対面] (28) 組織行動(マイクロ組織論) [対面] (29) 組織行動(マイクロ組織論) [対面] (30) 組織行動(マイクロ組織論) [対面] [アクティブラーニング取り入れ状況] 発表とディスカッションを行う。 [課題に対するフィードバック方法] 授業中に課題に対する説明を行う。 [教科書・参考書等] 教科書:授業時に指示する。 参考書:授業時に指示する。 [評価方法] (1)試験・テストについて (2)試験以外の評価方法	

(3)成績の配分・評価基準等

教科書を輪読する。発表担当者については、レジュメ、発表態度等を評価する。それ以外の学生については、質問の頻度等を評価する。出席重視。発表担当者の当日欠席は言語道断である。

[準備学習]

事前学習：発表レジュメ作成（120 分）

事後学習：関連文献を読む（120 分）

[授業以外の学習方法]

古典と呼ばれる書物を（難解だが）紐解いてみよう。

[科目の位置づけと他科目との関連]

本授業ではさまざまな学説を検討するが、それらは他の経営学関連科目でも取り上げられると思う。キーワードを見つけて科目と科目との関連を意識したい。

[担当教員へのアクセス]

メールアドレス s3454236@edu.isenshu-u.ac.jp

[オフィスアワー]

時間帯：木曜日 2 時限・昼休み・3 時限

場所：3号館2階 3219 号室

[備考]

授業内容に関する質問は 3219 教室で随時受け付ける。

財務管理論特論 (Advanced Financial Management)

担当者	
[単位・開講期] 4単位・通年 [授業概要] 令和4年度入学者に対しては、非開講。 [到達目標] [教科書・参考書等] [評価方法] [授業計画(前期)]	[授業計画(後期)]
[授業形態] [課題に対するフィードバック方法] [準備学習] [授業以外の学習方法] [科目の位置づけと他科目との関連] [担当教員へのアクセス] [オフィスアワー]	

労務管理論特殊研究 (Advanced Personnel and Labor Management)

担当者	
[単位・開講期] 4単位・通年 [授業概要] 令和4、6年度入学者に対しては、非開講。 [到達目標] <授業の方法> [授業形態] [授業計画(前期)] [アクティブラーニング取り入れ状況] [課題に対するフィードバック方法] [教科書・参考書等] [評価方法] [準備学習] [科目の位置づけと他科目との関連] [担当教員へのアクセス] [オフィスアワー]	[授業計画(後期)]

マーケティング論特殊研究(Advanced Marketing)

担当者	教授 李 東勲
[単位・開講期] 4単位・通年	
[授業概要] マーケティングは、時代ごとにその時代の問題を解決すべく定義されてきた。それゆえ、現在のアナログ技術からデジタル技術への変化は、生産者のみならず消費者や社会全体にも大きな影響を及ぼしており、特に経済格差の拡大や環境破壊の進行など、人々は直面する問題に対する解決策をマーケティングに求めている。そこで、本授業では経済格差の是正という問題意識から、日本において急を要する課題である地方都市の経済活性化の方策をマーケティングの専門理論から模索する。また、今日の商店街活性化を考える際には不可欠なキーワードとなっている「まちづくり」について院生と一緒に研究していく予定である。	
[到達目標] マーケティングに関する専門的な関心を通して、理論的な側面と実践的な側面の両方をバランスよく理解し、各自の問題意識の発展と問題解決に応用できる。	
<授業の方法>	
[授業形態]:【対面形式】 教科書の輪読やケーススタディの際には、発表担当者を決め、担当部分の内容をまとめて説明してもらい、それを土台にグループワークを行う。	
[授業計画(前期)] ー小零細小売業に関する既存研究の考察 1. 小零細小売業の定義と現状分析[対面] 2. 小零細小売業の低迷要因[対面] 3. 小零細小売業の概念規定①[対面] ー戦前の日本経済の特殊性からの認識 4. 小零細小売業の概念規定②[対面] ー戦後の相対的過剰人口の受入先 5. 中小小売業問題①ー大規模小売業との対立[対面] 6. 中小小売業問題②ー問題に関する諸見解[対面] 7. 中小企業論における小零細小売業の概念[対面] 8. 小零細小売業の経営目的[対面] 9. フランスにおける中小小売業の創業支援策[対面] 10. フランスにおける大規模小売業の規制政策[対面] 11. 日本における中小小売業の創業支援策[対面] 12. 日本における大店法の成立と変遷[対面] 13. まちづくり3法の再評価①ー大店立地法[対面] 14. まちづくり3法の再評価②[対面] ー中心市街地活性化法 15. まちづくり3法の再評価③[対面] ー改正都市計画法	[授業計画(後期)] ー小零細小売業に関する既存研究の考察 1. 小零細小売業の定義と現状分析[対面] 2. 小零細小売業の低迷要因[対面] 3. 小零細小売業の概念規定①[対面] ー戦前の日本経済の特殊性からの認識 4. 小零細小売業の概念規定②[対面] ー戦後の相対的過剰人口の受入先 5. 中小小売業問題①ー大規模小売業との対立[対面] 6. 中小小売業問題②ー問題に関する諸見解[対面] 7. 中小企業論における小零細小売業の概念[対面] 8. 小零細小売業の経営目的[対面] 9. フランスにおける中小小売業の創業支援策[対面] 10. フランスにおける大規模小売業の規制政策[対面] 11. 日本における中小小売業の創業支援策[対面] 12. 日本における大店法の成立と変遷[対面] 13. まちづくり3法の再評価①ー大店立地法[対面] 14. まちづくり3法の再評価②[対面] ー中心市街地活性化法 15. まちづくり3法の再評価③[対面] ー改正都市計画法
[アクティブラーニングの取り入れ状況] 博士後期課程においては研究者自身の独自のモデルを創出することが求められる。よって、本授業では先行研究のレビューに基づいた「問題発見と解決能力」の育成を念頭におきながら、授業の理解度を確認するために「各企業が目まぐるしく変化する環境にどのように対応して成功したのか、または失敗したのか」などの事例を調査し、授業内容に基づいて分析・評価するレポートを課す予定である。	

[課題に対するフィードバック方法]

教科書やケーススタディの内容、さらにアクティブラーニングの課題などが現場ではどう利用されるのか、またどう応用すれば良いのかについて議論しながら解説する。

[教科書・参考書等]

教科書：(前期) 李 東勲著『経営目的からみる小零細小売業の課題』専修大学出版局、2007 年
(後期) 岩澤孝雄著『商店街活性化と街づくり』白桃書房、1995 年

参考書：出家健治著『零細小売業研究』ミネルヴァ書房、2002 年
矢吹雄平著『地域マーケティング論—地域経営の新地平』有斐閣、2003 年

[評価方法]

(1) 試験・テストについて

筆記試験は実施しない。

(2) 試験以外の評価方法

本授業の評価基準は参加状況と発言頻度、発言内容、発表レジュメなどを総合的に判断し評価する。よって、十分な準備をしていない場合や発言しない人は評価が低くなる。

(3) 成績の配分・評価基準等

テキストや文献資料を中心とした担当部分の報告とディスカッションを踏まえて成績の評価を行う。後期は各自の研究報告も求める。詳しくは、担当部分の報告内容・報告資料の提出(60%)、ディスカッションの展開力(30%)、授業への貢献度(10%)で評価を行う。

[準備学習]

事前学習：本授業は参加型の形式をとり、理解力だけではなく探究力や表現力を養うことを目指す。

したがって、絶えず新聞、雑誌などに目を通して授業に参加することを求める。また、教科書をしっかり講読し、問題意識・質問を用意しなければならない。よって、教科書の内容を的確に理解するため、関連資料を調べることも求める。(120 分)

事後学習：本授業では、理解力・探究力・行動力を身につけるために礎となる基本知識を学ぶので、その日勉強した内容をまず覚えるように努めなければならない。そして、授業内容と関連する事例を調べてその理解度を向上させるように取り組むことを求める。(120 分)

[授業以外の学習方法]

教科書の内容を的確に理解するため、関連資料を調べることが必要である。特に、新聞・雑誌などは絶えず目を通してほしい。

[科目の位置づけと他科目との関連]

マーケティングは、企業のみならず組織が持続的な成長を続ける上で、重要な戦略である。したがって、マーケティング論特殊授業を受講するに当たっては、博士後期課程に配置されている科目を総合的に勉強する必要がある。

[担当教員へのアクセス]

研究室：3号館2階 3210 号室

メールアドレス：ldh3210@isenshu-u.ac.jp

[オフィスアワー]

時間帯：随時対応する。但し、メール (ldh3210@isenshu-u.ac.jp) で事前に会う約束を取るようにして下さい。

場所：3号館2階 3210 研究室

[備考・オフィスアワー]

院生の研究関心によっては相談の上で、教科書や授業内容を決定する。よって、上述した授業計画は受講生の関心によって変更可能であり、一つの例である。

国際比較経営論特殊研究(Advanced International Comparative Management)

担当者	教授 丸岡 泰
[単位・開講期] 4単位・通年	
[授業概要] 日本と海外における雇用慣行について比較検討を行う。	
[到達目標] 日本的雇用慣行の国際比較経営の観点からの特徴について理解を深める。 海外の雇用慣行や参加者の関心に応じた国・産業・企業の雇用事情の知識を広げる。	
<授業の方法> [授業形態] 【対面形式】を基本とするが、参加者との相談の上【非対面形式】の同時双方向型を取る場合もある。 学生の報告と議論を中心に授業を進める。	
[授業計画] (1)ガイダンス[対面] (2)～(14)日本的雇用慣行[対面] (15) 日本的雇用慣行のまとめ[対面] (16)ガイダンス[対面] (17)～(28)海外の雇用慣行[対面] (29)～(30)日本的雇用慣行と海外の雇用慣行のまとめ[対面]	
[アクティブラーニングの取り入れ状況] 授業での報告・議論。	
[課題に対するフィードバック方法] 授業中にコメント。	
[教科書・参考書等] 教科書：開講時に参加者と協議して、決めたい。 海外の雇用事情については、英語での情報収集を行いたい。 参考書：八代尚宏[1997]『日本的雇用慣行の経済学』日本経済新聞出版	
[評価方法] (1)試験・テストについて 試験・テストは実施しない。 (2)試験以外の評価方法 授業の準備と口頭報告・レジメの質に基づき評価する。 (3)成績の配分・評価基準等 報告回数(70%)、報告の質(30%)。	
[準備学習] 事前学習：問題提起するだけの深い読み方をしておくこと。(120分) 事後学習：問題提起するだけの深い読み方をしておくこと。(120分)	
[科目の位置づけと他科目との関連] 経済学関連の授業が前提となる。	

[担当教員へのアクセス]

研究室:3号館2階 3215 号館

[オフィスアワー]

時間帯:メール等でのアポに応じ実施。

maruoka(a)isenshu-u.ac.jp <(a)はアットマークに>

場所:研究室

地域経営論特殊研究 (Advanced Study in the Regional Management)

担当者	教授 庄子 真岐
[単位・開講期] 4単位・通年	
[授業概要] 人口減少、少子高齢化、産業の空洞化など地域経済を取り巻く環境は厳しさを増している。このような状況下において、域外の資本に依存せず、ある程度自立しながら、地域を活性化していくためには、何が必要であるかを様々な角度から考察していく。	
[到達目標] 本科目の到達目標は、以下3つである。 1. 地域社会の現状を把握する力を身に付ける。 2. 地域における産業政策が産業構造に与える影響を分析し、政策提言できる力を身に付ける。 3. 地域におけるマネジメントの課題を認識し、解決方法を考える力を身に付ける。	
<授業の方法>	
[授業形態]	
【対面形式】	
テーマに基づいた内容の文献を予習課題として提示する。	
提示された文献の内容を受講生がまとめ、発表する。	
発表内容について教員が補足説明した後、ディスカッションを行う。	
[授業計画(前期)] (1) 授業ガイダンス、地域社会の現状(1)人口 [対面] (2) 地域社会の現状(2)産業 [対面] (3) 地域の状況に関する分析(1) [対面] (4) 地域の状況に関する分析(2) [対面] (5) 地域の状況に関する分析(3) [対面] (6) 地域経済分析システム(1) [対面] (7) 地域経済分析システム(2) [対面] (8) 地域経済分析システム(3) [対面] (9) 地域産業システム(1) [対面] (10) 地域産業システム(2) [対面] (11) 地域産業システム(3) [対面] (12) 産業集積と産業クラスター(1) [対面] (13) 産業集積と産業クラスター(2) [対面] (14) 産業集積と産業クラスター(3) [対面] (15) 発表会と中間まとめ [対面]	
[授業計画(後期)] (16) 授業ガイダンス、地域社会の現状(1)人口 [対面] (17) 地域社会の現状(2)産業 [対面] (18) 地域の状況に関する分析(1) [対面] (19) 地域の状況に関する分析(2) [対面] (20) 地域の状況に関する分析(3) [対面] (21) 地域経済分析システム(1) [対面] (22) 地域経済分析システム(2) [対面] (23) 地域経済分析システム(3) [対面] (24) 地域産業システム(1) [対面] (25) 地域産業システム(2) [対面] (26) 地域産業システム(3) [対面] (27) 産業集積と産業クラスター(1) [対面] (28) 産業集積と産業クラスター(2) [対面] (29) 産業集積と産業クラスター(3) [対面] (30) 発表会と中間まとめ [対面]	
[アクティブラーニングの取り入れ状況]	
毎回、学生によるプレゼンテーションもしくはディスカッションを行う。	
[課題に対するフィードバック方法]	
文献購読のまとめ、プレゼンテーション、レポート課題については、評価表(ルーブリック)を用いて相互評価を行い、講義内でフィードバックする。	
[教科書・参考書等]	
参考書:枝廣淳子(2018)「地元経済を創りなおすー分析・診断・対策ー」岩波新書	
藤田 昌久他(2018)「復興の空間経済学:人口減少時代 地の地域再生」日本経済新聞社	

大野健一(2013)「産業政策のつくり方」有斐閣
R.フロリダ(2008)「クリエイティブ資本論 新たな経済階級の台頭」ダイヤモンド社

[評価方法]

(1)試験・テストについて

試験は実施しない。前期後期2回のレポートを課す。

(2)試験以外の評価方法

プレゼンテーション、文献購読、授業への貢献度(ディスカッションへの積極的参加)により評価する。

(3)成績の配分・評価基準等

本科目は、プレゼンテーション(40%)・文献購読、レポート課題(40%)・授業への貢献度(20%)によって評価する。

[準備学習]

事前学習:授業中に論点に応じた文献を紹介するので、しっかり読み込み、次週までにレジュメにまとめておくこと。

事後学習:授業中に論点に応じた文献を紹介するので、しっかり読み込み、次週までにレジュメにまとめておくこと。

[科目の位置づけと他科目との関連]

経営学に類する科目の多くは、本科目の内容と関連する。マネジメント、人的資源管理、マーケティングなどは、特に関連性が強い科目であると考えられる。

[担当教員へのアクセス]

研究室:3号館 1 階 3104 号室 (事前にアポを取る)

Teams チャットで随時対応

[オフィスアワー]

時間帯:火から木 昼休み

場所:3号館 1 階 3104 号室、オンライン

[備考]

授業内容に関する質問は随時受け付ける。

会社法特殊研究 (corporation Law)

担当者	教授 三森 敏正
[単位・開講期] 4単位・通年	
[授業概要] 本講では判例の詳細な分析および英独の会社法との比較を通じて、2020 年に改正された会社法の理解を深めていくことを目的とする。授業は演習方式で、毎週担当者が課題についてレポートを行い、それをもとに議論を行う形式で行う。この他、履修者の研究状況を鑑みて対応する。	
[到達目標] 会社法の主要な論点についての比較法的考察が可能となる知識の修得。	
<授業の方法>	
[授業形態] 【対面形式】	
演習方式。	
[授業計画(前期)] (1) 会社の能力と目的の範囲[対面] (2) (3) 法人格の否認[対面] (4) 設立中の会社[対面] (5) 設立の瑕疵と責任[対面] (6) 株主平等原則[対面] (7) 株式の内容と種類[対面] (8) 株式譲渡制限[対面] (9) 自己株式[対面] (10) 名義書換未了の株式譲渡人の地位[対面] (11) 名義書換の不当拒絶[対面] (12) 募集株式の有利発行[対面] (13) 募集株式の不公正発行[対面] (14) 新株発行無効[対面] (15) 株主総会の代理人資格の制限[対面]	[授業計画(後期)] (16) 株主総会招集通知の欠缺[対面] (17) 会社の能力と目的の範囲[対面] (18) 法人格の否認[対面] (19) 設立中の会社[対面] (20) 設立の瑕疵と責任[対面] (21) 株主平等原則[対面] (22) 株式の内容と種類[対面] (23) 株式譲渡制限[対面] (24) 自己株式[対面] (25) 名義書換未了の株式譲渡人の地位[対面] (26) 名義書換の不当拒絶[対面] (27) 募集株式の有利発行[対面] (28) 募集株式の不公正発行[対面] (29) 新株発行無効[対面] (30) 株主総会招集通知の欠缺[対面]
[アクティブラーニングの取り入れ状況] アクティブラーニングを取り入れる。	
[課題に対するフィードバック方法] 毎回のレポートについて講評し、必要に応じて添削して返却する。	
[教科書・参考書等] 教科書：別冊ジュリスト 会社法判例百選〔第 3 版〕 参考書：神田秀樹著 会社法〔第 22 版〕 弘文堂、江頭憲治郎著 株式会社法〔第 7 版〕	
[評価方法] (1) 試験・テストについて 実施しない。 (2) 試験以外の評価方法 毎回の授業における報告の準備状況および研究の進捗度。	

(3)成績の配分・評価基準等

報告内容6割 討論への参加の頻度4割

[準備学習]

事前学習:履修者は、レポーターである与否とに関わらず、各自教科書に記載されている判例・文献に目を通した上で授業に出席すること。会社法は民法の特別法であるので、民法の知識は必須である。(180分)

事後学習:民法の知識が不十分な場合には、各自民法の基本書などを読むなどして理解しておくこと。(120分)

[科目の位置づけと他科目との関連]

学部において、財産と法、企業組織と法、株式と法の単位を修得していることを履修条件とする。

[担当教員へのアクセス]

研究室:3号館1階3123号室

[オフィスアワー]

時間帯:随時。

場所:3号館1階3123号室

経営学演習 (Seminar of Advanced Business Management)

担当者	専任教員
[単位・開講期] 12単位 (3年間) [授業概要] 博士論文の研究課題に関係する文献の調査、演習および討論等を行う。 [到達目標] 研究書を読破し、プレゼンをできる。 <授業の方法> [授業形態] 【対面形式】【非対面形式】指導教員の指示に基づく。 演習。 [授業計画] 演習の初回に説明を行う。 [アクティブラーニングの取り入れ状況] 報告とその質疑応答。 [課題に対するフィードバック方法] 質疑応答によるフィードバック。 [教科書・参考書等] 教科書：別途指示する。 参考書： [評価方法] (1)試験・テストについて 指導教員の指示に基づく。 (2)試験以外の評価方法 報告に関する質疑の内容。 (3)成績の配分・評価基準等 発表・討論等の状況を総合的に評価する。 [準備学習] 事前学習：論文テーマに関する文献調査、報告準備。指定された読書範囲をよく読むこと。(120分) 事後学習：報告した内容の精査。(120分) [科目の位置づけと他科目との関連] 経営学演習は、先生の指導の下、博士論文を仕上げるのが目的であり、先生と相談の上、他科目の受講等、行うべきである。 [担当教員へのアクセス] 研究室：指導教員の指示に基づく。 [オフィスアワー] 時間帯：指導教員の指示に基づく。 場所：指導教員の指示に基づく。	

会計学原理特殊研究 (Advanced Accounting Theory)

担当者	教授 関根 慎吾
[単位・開講期] 4単位・通年	
[授業概要] 授業計画の内容に沿いながら、今日的企業分析の内容を体系的に究明する。	
[到達目標] 同分野についての博士資格水準への到達を目標とする。	
<授業の方法>	
[授業形態]	
【対面形式】 授業内容の説明と報告による質疑応答。	
[授業計画(前期)] 1. [対面] 財務諸表を利用した企業分析のフレームワーク 2. [対面] 経営戦略分析 3. [対面] 会計分析の概要 4. [対面] 資産の分析 5. [対面] 負債および持分の分析 6. [対面] 収益の分析 7. [対面] 費用の分析 8. [対面] 安全性分析(1)－短期支払能力 9. [対面] 安全性分析(2)－長期支払能力 10. [対面] 安全性分析(3)－倒産予測の可能性 11. [対面] 効率性分析(1)－回転率 12. [対面] 効率性分析(2)－回転日数 13. [対面] 生産性分析 14. [対面] 収益性分析(1)－総資産事業利益率 15. [対面] 収益性分析(2)－自己資本当期純利益率	[授業計画(後期)] 11. [対面] 財務諸表を利用した企業分析のフレーム 2. [対面] 総合評価 32. [対面] 経営戦略分析 43. [対面] 会計分析の概要の分析 54. [対面] 償還性の分析: 予測 65. [対面] 換算性の分析: 理論と概念 76. [対面] 将来性の分析: 企業評価の実際 87. [対面] 費用の企業評価指標(1)－伝統的な財務諸表分析の限界 98. [対面] 安全性分析(1)－短期支払能力 109. [対面] 安全性分析(2)－長期支払能力 110. [対面] 安全性分析(3)－倒産予測の可能性 121. [対面] 効率性分析(1)－回転率 132. [対面] 効率性分析(2)－(1)回転日数と日本基準 143. [対面] 生産性分析 144. [対面] 収益性分析(1)－総資産事業利益率 155. [対面] 収益性分析(2)－自己資本当期純利益率分析
[アクティブラーニングの取り入れ状況] 報告と質疑応答。	
[課題に対するフィードバック方法] 質疑によるフィードバック。	
[教科書・参考書等] K.G. パルプ、P.M. ヒーリー、V.L. バーナード著、斎藤静樹監訳「企業分析入門(最新版)」(東京大学出版会)を手がかりに、授業を進めたい。	
[評価方法] (1)試験・テストについて 行わない。 (2)試験以外の評価方法 報告に関する質疑の内容。	

(3)成績の配分・評価基準等

発表・討論等の状況を総合的に評価する。

[準備学習]

事前学習:報告準備のための文献調査。(120 分)

事後学習:報告した内容の精査。(120 分)

会計学関連の諸科目および経営学の隣接分野についても広く研究してほしい。

[科目の位置づけと他科目との関連]

本授業のテーマは会計学の応用分野であると同時に、隣接科学である経営戦略論、企業評価論も組み込んでいる。

[担当教員へのアクセス]

研究室:3号館2階 3218 号室

[オフィスアワー]

時間帯:月曜日 4 限目

場所:3号館2階 3218 号室

簿記原理特殊研究 (Advanced Theory of Book-keeping)

担当者	教授 関根 慎吾
[単位・開講期] 4単位・通年	
[授業概要] 経済のグローバル化ないしボーダーレス化に伴う会計基準の国際的調和化の動きなどによって、社会の基本的インフラとしての会計を取り巻く環境は大きく変貌している。その中で「簿記」に対する認識も大きく変わろうとしている。本講では「簿記」を理論的、歴史的、そして未来志向として IT 技術の進展の中でどのような役割を担っていくべきかを考えていくことにする。	
[到達目標] 財務会計分野の博士論文の作成を志す学生諸君に役立つ知識を身につけるとともに、税理士、公認会計士等の会計専門職の資格をねらう学生諸君の計算能力の向上ならびに、実務で直面するであろう会計情報システムへの考え方の基礎を涵養することも目標としている。	
<授業の方法>	
[授業形態]	
【対面形式】 授業内容の説明と報告による質疑応答。	
[授業計画(前期)]	
(1) [対面] 複式簿記の基本構造 (2) [対面] 複式簿記の成立過程 (3) [対面] 複式簿記の伝搬 (4) [対面] 現代の複式簿記観(1)―概観 (5) [対面] 現代の複式簿記観(2)―個別見解 (6) [対面] 過去簿記(1) ―イギリス 1 (7) [対面] 過去簿記(2) ―イギリス 2 (8) [対面] 過去簿記(3)―イギリス 3 (9) [対面] 過去簿記(4)―日本 1 (10) [対面] 過去簿記(5)―日本 2 (11) [対面] 過去簿記(6)―日本 3 (12) [対面] 過去簿記(7)―韓国への導入 1 (13) [対面] 過去簿記(8)―韓国への導入 2 (14) [対面] 過去簿記(9)―公会計 1 (15) [対面] 過去簿記(10)―公会計 2	
[授業計画(後期)]	
(16) [対面] 複式簿記の基本構造 (17) [対面] 複式簿記の成立過程 (18) [対面] 複式簿記の伝搬 (19) [対面] 現代の複式簿記観(1)―概観 (20) [対面] 現代の複式簿記観(2)―個別見解 (21) [対面] 過去簿記(1) ―イギリス 1 (22) [対面] 過去簿記(2) ―イギリス 2 (23) [対面] 過去簿記(3)―イギリス 3 (24) [対面] 過去簿記(4)―日本 1 (25) [対面] 過去簿記(5)―日本 2 (26) [対面] 過去簿記(6)―日本 3 (27) [対面] 過去簿記(7)―韓国への導入 1 (28) [対面] 過去簿記(8)―韓国への導入 2 (29) [対面] 過去簿記(9)―公会計 1 (30) [対面] 過去簿記(10)―公会計 2	
[アクティブラーニングの取り入れ状況]	
報告と質疑応答。	
[課題に対するフィードバック方法]	
質疑応答によるフィードバック。	
[教科書・参考書等]	
教科書：中野常男編著『複式簿記の構造と機能』同文館出版、2007 年	
参考書：無し	
[評価方法]	
(1) 試験・テストについて	
行わない。	
(2) 試験以外の評価方法	

報告に関する質疑の内容。

(3)成績の配分・評価基準等

レポートと授業中のディスカッションを総合的に判断して評価する。

[準備学習]

事前学習:報告準備のための文献調査。(120分)

事後学習:報告した内容の精査。(120分)

事前に課題を提示し、その課題に対する自分なりの考えを纏めてもらい、授業終了後にその結果をレポートとして提示してもらう。

[科目の位置づけと他科目との関連]

本授業は、会計学全般ならびに経営管理、財務論等の知識を基礎としているので、管理会計論特殊研究、会計学原理特殊研究、経営管理特殊研究等の授業をあわせて履修することが望ましい。

[担当教員へのアクセス]

研究室:3号館2階 3218号室

[オフィスアワー]

時間帯:月曜日 4限目

場所:3号館2階 3218号室

租税法特殊研究 (Advanced Tax Law)

担当者	教授 岡野 知子		
[単位・開講期] 4単位・通年			
[授業概要] ①租税法の意義と性質の理解 ②租税法の基本原則である租税法律主義、租税公平主義の内容の理解 ③租税実体法の課税要件の理解 ④租税判例研究 以上の4項目について下記の授業計画に従い修得する。			
[到達目標] 社会における租税の意義とその重要性を理解したうえで、理論と制度の両面から租税法を修得する			
<授業の方法>			
[授業形態]			
【対面形式】			
授業計画に沿った内容の説明と質疑応答。			
<table border="0"> <tr> <td data-bbox="167 925 790 1653"> [授業計画(前期)] (1) 租税の意義[対面] (2) 租税の根拠[対面] (3) 租税法の意義[対面] (4) 租税制度の沿革[対面] (5) 租税法の基本原則 ①(租税法律主義)[対面] (6) 租税法の基本原則 ②(租税公平主義)[対面] (7) 租税法の基本原則 ③(自主財政主義)[対面] (8) 租税法の法源[対面] (9) 租税法の解釈と適用[対面] (10) 租税実体法の意義[対面] (11) 租税要件総論①(納税義務者)[対面] (12) 租税法の基本原則②(課税物件)[対面] (13) 租税法の基本原則③(課税標準と税率)[対面] (14) 課税要件各論①(総説)[対面] (15) 課税要件各論②(総説)[対面] </td><td data-bbox="790 925 1412 1653"> [授業計画(後期)] (16) 租税の意義[対面] (17) 租税の根拠[対面] (18) 租税法の意義[対面] (19) 租税制度の沿革[対面] (20) 租税法の基本原則 ①(租税法律主義)[対面] (21) 租税法の基本原則 ②(租税公平主義)[対面] (22) 租税法の基本原則 ③(自主財政主義)[対面] (23) 租税法の法源[対面] (24) 租税法の解釈と適用[対面] (25) 租税実体法の意義[対面][対面] (26) 租税要件総論①(納税義務者)[対面] (27) 租税法の基本原則②(課税物件)[対面] (28) 租税法の基本原則③(課税標準と税率)[対面] (29) 課税要件各論①(総説)[対面] (30) 課税要件各論②(総説)[対面] </td></tr> </table>		[授業計画(前期)] (1) 租税の意義[対面] (2) 租税の根拠[対面] (3) 租税法の意義[対面] (4) 租税制度の沿革[対面] (5) 租税法の基本原則 ①(租税法律主義)[対面] (6) 租税法の基本原則 ②(租税公平主義)[対面] (7) 租税法の基本原則 ③(自主財政主義)[対面] (8) 租税法の法源[対面] (9) 租税法の解釈と適用[対面] (10) 租税実体法の意義[対面] (11) 租税要件総論①(納税義務者)[対面] (12) 租税法の基本原則②(課税物件)[対面] (13) 租税法の基本原則③(課税標準と税率)[対面] (14) 課税要件各論①(総説)[対面] (15) 課税要件各論②(総説)[対面]	[授業計画(後期)] (16) 租税の意義[対面] (17) 租税の根拠[対面] (18) 租税法の意義[対面] (19) 租税制度の沿革[対面] (20) 租税法の基本原則 ①(租税法律主義)[対面] (21) 租税法の基本原則 ②(租税公平主義)[対面] (22) 租税法の基本原則 ③(自主財政主義)[対面] (23) 租税法の法源[対面] (24) 租税法の解釈と適用[対面] (25) 租税実体法の意義[対面][対面] (26) 租税要件総論①(納税義務者)[対面] (27) 租税法の基本原則②(課税物件)[対面] (28) 租税法の基本原則③(課税標準と税率)[対面] (29) 課税要件各論①(総説)[対面] (30) 課税要件各論②(総説)[対面]
[授業計画(前期)] (1) 租税の意義[対面] (2) 租税の根拠[対面] (3) 租税法の意義[対面] (4) 租税制度の沿革[対面] (5) 租税法の基本原則 ①(租税法律主義)[対面] (6) 租税法の基本原則 ②(租税公平主義)[対面] (7) 租税法の基本原則 ③(自主財政主義)[対面] (8) 租税法の法源[対面] (9) 租税法の解釈と適用[対面] (10) 租税実体法の意義[対面] (11) 租税要件総論①(納税義務者)[対面] (12) 租税法の基本原則②(課税物件)[対面] (13) 租税法の基本原則③(課税標準と税率)[対面] (14) 課税要件各論①(総説)[対面] (15) 課税要件各論②(総説)[対面]	[授業計画(後期)] (16) 租税の意義[対面] (17) 租税の根拠[対面] (18) 租税法の意義[対面] (19) 租税制度の沿革[対面] (20) 租税法の基本原則 ①(租税法律主義)[対面] (21) 租税法の基本原則 ②(租税公平主義)[対面] (22) 租税法の基本原則 ③(自主財政主義)[対面] (23) 租税法の法源[対面] (24) 租税法の解釈と適用[対面] (25) 租税実体法の意義[対面][対面] (26) 租税要件総論①(納税義務者)[対面] (27) 租税法の基本原則②(課税物件)[対面] (28) 租税法の基本原則③(課税標準と税率)[対面] (29) 課税要件各論①(総説)[対面] (30) 課税要件各論②(総説)[対面]		
各授業では、事前学習(授業のテーマに沿ったレジュメの作成および資料収集)後、授業でディスカッションをおこない、事後学習(授業で習得した内容の復習)をおこなうこと。			
[アクティブラーニングの取り入れ状況]			
授業でレジュメ等をもとにディスカッションを行う。			
[課題に対するフィードバック方法]			
ディスカッション後の提出レポートにコメントを付し返却する。			
[教科書・参考書等]			
教科書:金子 宏著『租税法』第23版 弘文堂 6,500円+税			

参考書:適宜紹介する。

[評価方法]

(1)試験・テストについて

実施しない。

(2)試験以外の評価方法

レジュメ、報告内容、ディスカッション内容・参加度による評価方法。

(3)成績の配分・評価基準等

レジュメ、報告、ディスカッションにより総合的に評価する。

[準備学習]

事前学習:授業のテーマに沿ったレジュメの作成および資料収集。(120 分)

事後学習:授業で習得した内容の復習。(120 分)

[授業以外の学習方法]

・雑誌掲載論文、書籍、新聞等の資料収集

・レジュメおよび論文作成方法の習得、Power Point による報告内容の作成およびプレゼンテーションの練習

・ディスカッションへの活発な参加

[科目の位置づけと他科目との関連]

会計科目、民法、会社法と密接な関係があるので、併せて受講または研究してほしい。

[担当教員へのアクセス]

研究室:3号館2階 3209 号室

[オフィスアワー]

時間帯:授業終了後または昼休み

場所:研究室(3号館2階 3209 号室)

[備考]

質問はメールにても受け付ける。

会計学演習 (Research in Accounting)

担当者	専任教員
[単位・開講期] 12単位(3年間) [授業概要] 博士論文の研究課題に関係する文献の調査、演習および討論等を行う。 [到達目標] 研究書を読破し、プレゼンをできる。 <授業の方法> [授業形態] 【対面形式】【非対面形式】指導教員に基づく。 演習。 [授業計画] 論文テーマの選定と論文作成のための質疑応答を毎回行う。 [アクティブラーニングの取り入れ状況] 報告とその質疑応答。 [課題に対するフィードバック方法] 質疑応答によるフィードバック。 [教科書・参考書等] 別途指示する。 [評価方法] (1)試験・テストについて 行わない。 (2)試験以外の評価方法 報告に関する質疑の内容。 (3)成績の配分・評価基準等 発表・討論等の状況を総合的に評価する。 [準備学習] 事前学習:論文テーマに関する文献調査、報告準備。(120分) 事後学習:報告した内容の精査。(120分) 博士論文のテーマに関する調査研究は元より、会計学関連の諸科目についても広く研究してほしい。 [科目の位置づけと他科目との関連] 同上 [担当教員へのアクセス] 研究室:指導教員の指示に基づく。 [オフィスアワー] 時間帯:指導教員の指示に基づく。 場所:指導教員の指示に基づく。	

経営統計学特殊研究 (Advanced Business Statistics)

担当者	教授 浅沼 大樹
[単位・開講期]	
4単位・通年	
[授業概要]	
経済・経営で見られる様々なデータの統計的扱いを確実にするため、多数の例からそのエッセンスを学ぶ。十分理解したうえで、実際のデータを処理するプログラムを作っていく。	
[到達目標]	
適切な統計手法によりデータを解析し、結果として出てきた数値について説明ができることを目的とする。	
<授業の方法>	
[授業形態]	
【対面形式】	
担当を決めて和訳した後、内容についての演習を行う。	
[授業計画(前期)]	
(1) データ収集(1)[対面]	[授業計画(後期)]
(2) データ収集(2)[対面]	(16) データ収集(1)[対面]
(3) データ収集(3)[対面]	(17) データ収集(2)[対面]
(4) データのまとめ方とグラフ(1)[対面]	(18) データ収集(3)[対面]
(5) データのまとめ方とグラフ(2)[対面]	(19) データのまとめ方とグラフ(1)[対面]
(6) データのまとめ方とグラフ(3)[対面]	(20) データのまとめ方とグラフ(2)[対面]
(7) 確率(1)[対面]	(21) データのまとめ方とグラフ(3)[対面]
(8) 確率(2)[対面]	(22) 確率(1)[対面]
(9) 確率(3)[対面]	(23) 確率(2)[対面]
(10) 確率(4)[対面]	(24) 確率(3)[対面]
(11) 確率(5)[対面]	(25) 確率(4)[対面]
(12) 確率分布(1)[対面]	(26) 確率(5)[対面]
(13) 確率分布(2)[対面]	(27) 確率分布(1)[対面]
(14) 確率分布(3)[対面]	(28) 確率分布(2)[対面]
(15) 確率分布(4)[対面]	(29) 確率分布(3)[対面]
	(30) 確率分布(4)[対面]
[アクティブラーニングの取り入れ状況]	
アクティブラーニングは実施しない。	
[課題に対するフィードバック方法]	
課題提出後に解説を行う。	
[教科書・参考書等]	
学生と相談のうえ決定するが、以下の文献を考えている。	
教科書:Mark L. Berenson, BASIC BUSINESS STATISTICS, Prentice Hall, 2011.	
参考書:	
その他、随時紹介する。	
[評価方法]	
(1)試験・テストについて	
実施しない。	
(2)試験以外の評価方法	

レポートと発表による評価。

(3)成績の配分・評価基準等

出席状況とレポートにより評価する。

[準備学習]

事前学習:ソフトウェアの可読性、相互依存性について、事前学習しておくこと。(120分)

事後学習:基礎的部分については、和書を使ってもよいので復習しておく事。(120分)

[科目の位置づけと他科目との関連]

課題によっては、関連科目の履修が必須となる場合がある。

[担当教員へのアクセス]

研究室:授業時に伝える。

[オフィスアワー]

時間帯:相談や質問には適宜応じる。

場所:

[備考]

相談や質問には適宜応じる。積極的に受講してほしい。

情報システム構成論特殊研究 (Advanced Study in Information Systems Design)

担当者	
[単位・開講期] 4単位・通年 [授業概要] 令和4、6年度入学者に対しては、非開講。 [到達目標] <授業の方法> [授業形態] [授業計画(前期)] [アクティブラーニング取り入れ状況] [課題に対するフィードバック方法] [教科書・参考書等] [評価方法] [準備学習] [科目の位置づけと他科目との関連] [担当教員へのアクセス] [オフィスアワー]	[授業計画(後期)]

情報ネットワーク論特殊研究(Advanced Study on Internet Programming)

担当者	教授 佐々木 万亀夫
[単位・開講期] 4単位・通年	
[授業概要] 現在、量子コンピュータのハードウェアやアルゴリズムが研究されている。量子コンピュータは今後世の中に普及していくものと思われる。授業では量子コンピュータを取り上げて基本から解説していく。また、量子コンピュータに関わるプログラミングについて実習を行う。 前期は量子力学に必要な数学について経営の学生にも理解できるように解説する。続いて量子力学の基本について解説する。最後に量子コンピュータの原理を理解できるところまで話を進める。 後期は量子コンピュータを使用することを前提としたプログラミングの実習を行う。プログラミング言語としてPythonを使用する。最後に経営においてどのようなデータ分析に利用することができそうかについて調べ発表してもらう。	
[到達目標] ・量子力学の考え方を理解できるようになる。 ・量子コンピュータの原理について理解できるようになる。 ・量子コンピュータを使用することを前提としたプログラミングを行うことができるようになる。 ・量子コンピュータに関わる用語を使って開発側と情報を共有しビジネスに活かせるようになる。	
<授業の方法>	
[授業形態]	
【対面形式】	
前期は教科書をもとに説明を行う。後期は教科書をもとに説明と実習を行う。	
[授業計画(前期)] (1) 複素数[対面] (2) 数列[対面] (3) 行列[対面] (4) 行列の計算[対面] (5) 基本的な微分[対面] (6) 微分(三角関数)[対面] (7) 基本的な積分「[対面] (8) 積分(三角関数)[対面] (9) 偏微分[対面] (10) 微分方程式[対面] (11) 量子的な性質[対面] (12) 波動的観点と粒子的観点[対面] (13) 確率振幅[対面] (14) スピン1[対面] (15) スピン 1/2[対面]	[授業計画(前期)] (16) 複素数[対面] (17) 数列[対面] (18) 行列[対面] (19) 行列の計算[対面] (20) 基本的な微分[対面] (21) 微分(三角関数)[対面] (22) 基本的な積分「[対面] (23) 積分(三角関数)[対面] (24) 偏微分[対面] (25) 微分方程式[対面] (26) 量子的な性質[対面] (27) 波動的観点と粒子的観点[対面] (28) 確率振幅[対面] (29) スピン1[対面] (30) スピン 1/2[対面]
[アクティブラーニング取り入れ状況] プログラミングの実習や、与えられた課題についてプレゼンテーションを行ってもらう。	
[課題に対するフィードバック方法] 振り返り用のレポートをもとに学生が理解しやすいように実習を見直していく。	
[教科書・参考書等]	

教科書:

- ・丸山 耕司 (監修), 北野 章 翻訳、『動かして学ぶ量子コンピュータプログラミング —シミュレータとサンプルコードで理解する基本アルゴリズム』、Eric R. Johnston, Nic Harrigan, Mercedes Gimeno-Segovia, オライリージャパン、2020
- ・その他プリントを配布する。

参考書:

- ・砂川重彦訳、『ファインマン物理学Ⅴ量子力学』、岩波書店、1986
- ・その他適宜指示する。

[評価方法]

(1) 試験・テストについて

試験は行わない。

(2) 試験以外の評価方法

毎回、授業の振り返りのために簡単なレポートを提出してもらう。また、専門用語の理解、質問に対する用語の適切な使い方、プログラミングの能力に対し評価を行う。

(3) 成績の配分・評価基準など

毎回のレポートと実習により評価を行う。毎回のレポートにおいては専門用語を理解しているか、実習においては作業の進行状況を見て評価を行う。量子コンピューティングに関わる用語の理解 (60%)、プログラミング (40%) の配分となる。

[準備学習]

事前学習: この授業では、量子コンピュータという最新的话题を取り上げるため数学の知識が必要になってくる。授業では学生の進度に合わせ具体的に説明していくが予習や復習をして理解を深めるようにしてもらいたい。(120 分)

事後学習: 数学や量子力学の考え方について理解し慣れるためには復習を行う必要がある。疑問に思った点についてはすぐに質問してもらいたい。その時に自分がわからない部分について相手に質問の意図がはっきりわかるように説明してもらいたい。時間外においてはメールで質問してもらう。当日中に回答する予定である。(120 分)

[科目の位置づけと他科目との関連]

数学、物理学、経済学、統計学の基本を身につけておくことが望ましい。またプログラミングに関わる授業や実習を履修し、プログラミングの基本を身につけておく必要がある。

[担当教員へのアクセス]

研究室: 3号館1階 3120 号室

メールアドレス: msasaki@isenshu-u.ac.jp

[オフィスアワー]

時間帯: 随時

場所: 3120 研究室

[備考]

特になし。

情報資源管理論特殊研究 (Advanced Study in the Security of Information Resources)

担当者	教授 佐々木 万亀夫
[単位・開講期] 4単位・通年	
[授業概要] 情報通信技術はその技術的進歩及び利用範囲の拡大により現代社会の重要なインフラストラクチャーとしての地位を確立した。この反面でネットワークシステム等に障害が発生した場合には社会が多大なる損失を被るようになった。そのため、ネットワーク、ホストコンピュータ、端末、ソフトウェア等の情報資源の管理が必要不可欠になっている。本授業では、Business Information System を例にとり、情報通信技術の技術的な側面及び人的マネジメントの側面から情報資源管理に関して理論的かつ実践的な方法論を研究する。	
[到達目標] 情報システムに関する文献・資料は、日本語で書かれているものであっても元をたどれば洋書である場合が多い。そこで、Business Information System に関する洋書を研究することにより、新しい知見を得ることを本授業の到達目標とする。	
<授業の方法>	
[授業形態]	
【対面形式】 文献講読が中心の「授業・演習」形式である。	
[授業計画(前期)] (1) Basic concepts [対面] (2) Data and information [対面] (3) Creating information [対面] (4) Qualities of information [対面] (5) The Business environment [対面] (6) Different types of systems [対面] (7) Business information systems [対面] (8) Categories of business information systems [対面] (9) Network components [対面] (10) The evolution of networking technology [対面] (11) Business applications of information systems [対面] (12) Acquiring and developing BIS [対面] (13) Initiating systems development [対面] (14) Risk management [対面] (15) BIS project management [対面] ディスカッションを適宜授業中に行う。	[授業計画(前期)] (1) Basic concepts [対面] (2) Data and information [対面] (3) Creating information [対面] (4) Qualities of information [対面] (5) The Business environment [対面] (6) Different types of systems [対面] (7) Business information systems [対面] (8) Categories of business information systems [対面] (9) Network components [対面] (10) The evolution of networking technology [対面] (11) Business applications of information systems [対面] (12) Acquiring and developing BIS [対面] (13) Initiating systems development [対面] (14) Risk management [対面] (15) BIS project management [対面]
[アクティブラーニングの取り入れ状況] ディスカッションを行う。	
[課題に対するフィードバック方法] 授業中に適宜フィードバックをする。	
[教科書・参考書等] 教科書：Paul Bocij et. al, “BUSINESS INFORMATION SYSTEMS”,	

Pearson Prentice Hall(2006)

参考書:随時指示する。

[評価方法]

(1)試験・テストについて

実施しない。

(2)試験以外の評価方法

教科書の内容理解等の平常点。

(3)成績の配分・評価基準等

教科書の内容研究等を平常点(100%)として評価する。試験を行わない予定であるが、研究内容のレベルが低い場合はレポートの提出をしてもらう。

[準備学習]

教科書の予習および復習が必要である。特に、テキストが洋書であるため、予習には多くの時間を割いてもらいたい。

事前学習:教科書の予習(180分)

事後学習:教科書の予習および復習(60分)

[科目の位置づけと他科目との関連]

英語の読解力養成のため、併せて外国語専門文献研究を履修することが望ましい。

[担当教員へのアクセス]

研究室:3号館1階3120号室

メールアドレス:msasaki@isenshu-u.ac.jp

[オフィスアワー]

時間帯:随時

場所:3120研究室

[備考]

特になし。

シミュレーション論特殊研究 (Advanced Simulation)

担当者	教授 日野 博明		
[単位・開講期] 4単位・通年			
[授業概要] シミュレーションモデルを作り上げるためには、多方面の分野にまたがる知識が重要であり、その多くが数学的な背景を持っている。そのため、本格的なシミュレーションを目指すためには、ここを避けては通れない。また、経営工学的な部分としてオペレーションズ・リサーチも欠かせない分野である。 このような見地から数量化、関数、確率などを含めて、総合的に演習を含めながら進め、経営学的に有用なシミュレーションとなるように作り上げていく			
[到達目標] 適切な手法の選択により、明確なモデル設計を目標とする。			
<授業の方法>			
[授業形態]			
【対面形式】 資料に基づいて説明をした後に実習を行う。			
<table border="0"> <tr> <td data-bbox="165 918 790 1536"> [授業計画(前期)] (1) 整数論Ⅰ[対面] (2) 整数論Ⅱ[対面] (3) 整数論Ⅲ[対面] (4) 整数論Ⅳ[対面] (5) 微積分Ⅰ[対面] (6) 微積分Ⅱ[対面] (7) 最適化Ⅰ[対面] (8) 最適化Ⅱ[対面] (9) 最適化Ⅲ[対面] (10) シミュレーションモデル研究Ⅰ[対面] (11) シミュレーションモデル研究Ⅱ[対面] (12) シミュレーションモデル研究Ⅲ[対面] (13) 暗号のアルゴリズム・プログラムⅠ[対面] (14) 暗号のアルゴリズム・プログラムⅡ[対面] (15) 暗号のアルゴリズム・プログラムⅢ[対面] </td><td data-bbox="790 918 1410 1536"> [授業計画(後期)] (16) 整数論Ⅰ[対面] (17) 整数論Ⅱ[対面] (18) 整数論Ⅲ[対面] (19) 整数論Ⅳ[対面] (20) 微積分Ⅰ[対面] (21) 微積分Ⅱ[対面] (22) 最適化Ⅰ[対面] (23) 最適化Ⅱ[対面] (24) 最適化Ⅲ[対面] (25) シミュレーションモデル研究Ⅰ[対面] (26) シミュレーションモデル研究Ⅱ[対面] (27) シミュレーションモデル研究Ⅲ[対面] (28) 暗号のアルゴリズム・プログラムⅠ[対面] (29) 暗号のアルゴリズム・プログラムⅡ[対面] (30) 暗号のアルゴリズム・プログラムⅢ[対面] </td></tr> </table>		[授業計画(前期)] (1) 整数論Ⅰ[対面] (2) 整数論Ⅱ[対面] (3) 整数論Ⅲ[対面] (4) 整数論Ⅳ[対面] (5) 微積分Ⅰ[対面] (6) 微積分Ⅱ[対面] (7) 最適化Ⅰ[対面] (8) 最適化Ⅱ[対面] (9) 最適化Ⅲ[対面] (10) シミュレーションモデル研究Ⅰ[対面] (11) シミュレーションモデル研究Ⅱ[対面] (12) シミュレーションモデル研究Ⅲ[対面] (13) 暗号のアルゴリズム・プログラムⅠ[対面] (14) 暗号のアルゴリズム・プログラムⅡ[対面] (15) 暗号のアルゴリズム・プログラムⅢ[対面]	[授業計画(後期)] (16) 整数論Ⅰ[対面] (17) 整数論Ⅱ[対面] (18) 整数論Ⅲ[対面] (19) 整数論Ⅳ[対面] (20) 微積分Ⅰ[対面] (21) 微積分Ⅱ[対面] (22) 最適化Ⅰ[対面] (23) 最適化Ⅱ[対面] (24) 最適化Ⅲ[対面] (25) シミュレーションモデル研究Ⅰ[対面] (26) シミュレーションモデル研究Ⅱ[対面] (27) シミュレーションモデル研究Ⅲ[対面] (28) 暗号のアルゴリズム・プログラムⅠ[対面] (29) 暗号のアルゴリズム・プログラムⅡ[対面] (30) 暗号のアルゴリズム・プログラムⅢ[対面]
[授業計画(前期)] (1) 整数論Ⅰ[対面] (2) 整数論Ⅱ[対面] (3) 整数論Ⅲ[対面] (4) 整数論Ⅳ[対面] (5) 微積分Ⅰ[対面] (6) 微積分Ⅱ[対面] (7) 最適化Ⅰ[対面] (8) 最適化Ⅱ[対面] (9) 最適化Ⅲ[対面] (10) シミュレーションモデル研究Ⅰ[対面] (11) シミュレーションモデル研究Ⅱ[対面] (12) シミュレーションモデル研究Ⅲ[対面] (13) 暗号のアルゴリズム・プログラムⅠ[対面] (14) 暗号のアルゴリズム・プログラムⅡ[対面] (15) 暗号のアルゴリズム・プログラムⅢ[対面]	[授業計画(後期)] (16) 整数論Ⅰ[対面] (17) 整数論Ⅱ[対面] (18) 整数論Ⅲ[対面] (19) 整数論Ⅳ[対面] (20) 微積分Ⅰ[対面] (21) 微積分Ⅱ[対面] (22) 最適化Ⅰ[対面] (23) 最適化Ⅱ[対面] (24) 最適化Ⅲ[対面] (25) シミュレーションモデル研究Ⅰ[対面] (26) シミュレーションモデル研究Ⅱ[対面] (27) シミュレーションモデル研究Ⅲ[対面] (28) 暗号のアルゴリズム・プログラムⅠ[対面] (29) 暗号のアルゴリズム・プログラムⅡ[対面] (30) 暗号のアルゴリズム・プログラムⅢ[対面]		
[アクティブラーニングの取り入れ状況] アクティブラーニングは実施しない。			
[課題に対するフィードバック方法] 課題提出後に解説を行う。			
[教科書・参考書等] 教科書：特に指定しない 参考書：関根智明・高橋磐郎・若山邦紘著「シミュレーション」日科技連 近藤次郎著「数学モデル入門」日科技連 石村園子著「やさしく学べる微分積分」共立出版 結城浩著「暗号技術入門」ソフトバンクパブリッシング 森雅夫・森戸進 他著「オペレーションズ・リサーチⅠ、Ⅱ」朝倉書店			

[評価方法]

- (1)試験・テストについて
実施しない。
- (2)試験以外の評価方法
レポートと課題モデルによる評価。
- (3)成績の配分・評価基準等
毎回のレポート(50%)と課題モデル(50%)により評価する。

[準備学習]

事前学習:ソフトウェアの可読性、相互依存性について、事前学習しておくこと。(120分)
事後学習:数学モデルについての理解が必要となるので、基礎的部分については、事前に復習しておく事。
(120分)

[科目の位置づけと他科目との関連]

経営学、オペレーションズ・リサーチ等、シミュレーションを行う上で、必要な部分を各自学んでおく事。

[担当教員へのアクセス]

研究室:3号館2階 3224 号館

[オフィスアワー]

時間帯:随時。授業終了後でも可。
場所:研究室3号館2階 3224 号館

経営情報学演習 (Seminar of Business Information Theory)

担当者	専任教員
[単位・開講期] 12単位(3年間)	
[授業概要] 「経営情報学演習」では、「経営情報学」という専攻分野の枠内で、博士論文作成のための研究指導を行う。各々の研究テーマを設定した学生は、演習担当教員の指導のもと、文献の講読、資料の収集、調査分析等を行い、適当な時期に発表・討論しながら、さらにその研究を深めていき、最終的には博士論文の作成へと繋げる。	
[到達目標] 各演習担当教員の研究指導の下で研究能力を高め、各自の研究課題について博士論文をまとめる。	
<授業の方法> [授業形態] 【対面形式】 を基本とする。 指導教員の指示に基づく。 文献講読、資料の分析、調査を行う。「授業・演習」形式である。	
[授業計画] 演習の初回に担当教員より説明があるが、概ね以下のような計画である。2年次には1年次の研究を深化し、3年次には博士論文執筆の指導を行なう。	
(前期) (1) 研究テーマの決定 (2) 研究計画作成 (3) 研究テーマに関する文献の講読1 (4) 研究テーマに関する文献の講読2 (5) 研究テーマに関する文献の講読3 (6) 研究テーマに関する文献の講読4 (7) 研究テーマに関する文献の講読5 (8) 研究テーマに関する資料の精査1 (9) 研究テーマに関する資料の精査2 (10) 研究テーマに関する資料の精査3 (11) 研究テーマに関する資料の精査4 (12) 研究テーマに関する資料の精査5 (13) 研究テーマに関する調査分析1 (14) 研究テーマに関する調査分析2 (15) 研究テーマに関する調査分析3	(後期) (16) 研究テーマの決定 (17) 研究計画作成 (18) 研究テーマに関する文献の講読1 (19) 研究テーマに関する文献の講読2 (20) 研究テーマに関する文献の講読3 (21) 研究テーマに関する文献の講読4 (22) 研究テーマに関する文献の講読5 (23) 研究テーマに関する資料の精査1 (24) 研究テーマに関する資料の精査2 (25) 研究テーマに関する資料の精査3 (26) 研究テーマに関する資料の精査4 (27) 研究テーマに関する資料の精査5 (28) 研究テーマに関する調査分析1 (29) 研究テーマに関する調査分析2 (30) 研究テーマに関する調査分析3
ディスカッションを適宜授業中に行う。	
[アクティブラーニングの取り入れ状況] ディスカッション、資料の分析、調査は、アクティブラーニングそのものである。	
[課題に対するフィードバック方法] 授業中に適宜フィードバックをする。	
[教科書・参考書等] 担当教員より別途指示する。	
[評価方法] (1) 試験・テストについて	

担当教員より別途指示する。

(2)試験以外の評価方法

担当教員より別途指示する。

(3)成績の配分・評価基準等

討論の状況(20%)、論文内容(60%)、論文発表(20%)により評価する。

[準備学習]

担当教員より別途指示するが、合計で 240 分必要。

事前学習:事後学習と合わせて 240 分。

事後学習:事前学習と合わせて 240 分。

[授業以外の学習方法]

博士論文を執筆するにあたり、授業以外の時間を十分に活用して、必要な資料の収集、調査分析等を継続的に行なう必要がある。また、大学院生相互に研究に関する議論を活発に行なうこと。

[科目の位置づけと他科目との関連]

各学生が設定したテーマの博士論文作成のための研究指導を行うが、そのために履修が必要な科目については別途指示する。

[担当教員へのアクセス]

研究室:担当教員より別途指示する。

メールアドレス:担当教員より別途指示する。

[オフィスアワー]

時間帯:担当教員より別途指示する。

場所:担当教員より別途指示する。

[備考]

研究進行状況等について、各演習担当教員とのコミュニケーションを欠かさないこと。

外国語専門文献研究 (Advanced Foreign Treatises)

担当者	教授 丸岡 泰
[単位・開講期]	
隔週、2単位・通年	
[授業概要]	
この科目では外国語の専門の文献を通して、国際観光の問題を理解することを目標とする。国際観光にかかわる基本問題の他、オーバーツーリズムの問題を取り上げる。参加学生は取り上げる各回の問題について英語文献を読み内容について発表を行い、教員との間で議論を行うことが求められる。適宜補助教材を使用する。文献の理解と議論により諸問題への理解を深化させる。	
[到達目標]	
外国語の文献の読解になれることは勿論のこと、受講者が議論と意見交換を通して、国際観光について新しい知見を得ることができるようになることが目標である。	
<授業の方法>	
[授業形態]	
【対面形式】	
文献講読が中心の「授業・演習」形式である。	
[授業計画]	
(1) 授業形態予定[対面] What is international tourism?	
(2) 授業形態予定[対面] International tourism definitions	
(3) 授業形態予定[対面] Why is international tourism important?	
(4) 授業形態予定[対面] Value to the economy	
(5) 授業形態予定[対面] Foreign exchange earnings	
(6) 授業形態予定[対面] Contribution to government revenues	
(7) 授業形態予定[対面] Employment generation	
(8) 授業形態予定[対面] Contribution to local economies	
(9) 授業形態予定[対面] Overall economy boost	
(10) 授業形態予定[対面] Value to society	
(11) 授業形態予定[対面] International tourism statistics	
(12) 授業形態予定[対面] What is overtourism and how can we overcome it?	
(13) 授業形態予定[対面] What is overtourism?	
(14) 授業形態予定[対面] Overcoming overtourism excesses	
(15) 授業形態予定[対面] Solutions to address overtourism	
[アクティブラーニングの取り入れ状況]	
ディスカッションを行う。	
[課題に対するフィードバック方法]	
授業中に適宜フィードバックをする。	
[教科書・参考書等]	
教科書: What is international tourism and why is it important? (配布共有)	
What is overtourism and how can we overcome it? (配布共有)	
参考書: 適宜指示する。	
[評価方法]	
(1) 試験・テストについて	
実施しない。	

(2)試験以外の評価方法

教科書の内容理解等の平常点。

(3)成績の配分・評価基準等

受講者は毎回予め決められた講読部分を全訳して授業に参加することになるので、その訳出の仕方及び授業中のディスカッションの仕方を平常点(100%)として評価する。

[準備学習]

教科書の予習および復習が必要である。外国書がテキストであるため、予習には多くの時間を割いてもらいたい。

事前学習:教科書の予習(180分)

事後学習:教科書の予習および復習(60分)

[科目の位置づけと他科目との関連]

外国文献を講読する訓練であると同時に国際観光の基本的な問題のディスカッションの場である。

[担当教員へのアクセス]

研究室:3号館 2 階 3215 号室

メールアドレス:maruoka@isenshu-u.ac.jp

[オフィスアワー]

時間帯:随時

場所:3215 研究室

[備考]

特になし。